

# Oblige

特集 夏の日の親子対話のために——

## 君よ「抽象概念」を 語れ

いつの頃からか私たちは、実体の伴わないものについて  
考えたり語ることをやめてしまった。  
たとえば、誇り、芸術、死、家族、夢など。  
その結果、出現した効率的で合理的な社会は、  
何故か、利己的で冷酷な人間を生み出している……。

世界遺産に認定された  
白神山地にみる自然と人間の共生

櫻友クラブ主催の  
イベント案内



## Color of Paradise

## 楽園の色

すかわら・れいこ／1966年  
東京生まれ。カラーアナリス  
スト、イメージコンサルタ  
ント。米国にて同資格取得。  
現在、(株)インプレッショ  
ンにて色を通して衣食住の  
トータルコンサルティング  
を行う。同社取締役。

菅原令子  
(平1英)



プールサイド・レストランで遅  
めのランチをとって、読書をし  
ていたら、いつの間にか眠って  
しまいました。火照った体を冷  
やすために、プールに飛び込み  
上がってみると、脱ぎ捨ててお  
いたはずのビーチウェアがデッ  
キチェアにさり気なく掛けてあ  
りました。タイのサムイ島。パ  
ティック地の青が印象的でした。

## 青

カラーコンサルティングでお客さまに似合う色を診断する  
時、私はよく「好きな色」を伺う。好きな色と似合う色は  
必ずしも一致しないが、似合う色は周囲からの評判がよい  
ので好きな色であることも多い。またそれ以上に、「好き  
な色」はその人自身の性格や、心の状態をある程度、物語  
る。短時間で、相手の方の人柄やニーズを把握するには  
貴重な情報である。日本人は青好きな民族といわれる。企  
業のコーポレートカラーにも、政治家のイメージカラーと  
してもたくさん存在するし、私のお客さまにも青系統の色

を好む方は多い。水や空を連想させる澄んだ印象の青。色  
の中で最も人を緊張させるのは赤だが、青は一番リラク  
スさせる色。内臓の働きを司る自律神経の働きを抑え、血  
圧、呼吸、筋肉緊張が減少するためだ。青を見たり、身に  
着けた人間は、平和で穏やかな気持ちになる。現実を醒め  
た目で見つめ、自制を促す青はダイエットに最適の色とい  
われるが、青い食器は、食物に多くみられるオレンジ色や  
茶色とはお互いを引き立てあう補色関係にあり、実は食事  
をおいしそうに見せる効果があるので、油断禁物である。

## COVER

巨石に刺された、キリン、サイ、シマウマ……。これはアフリカ大陸南部の国・ナミビアのナミブ砂漠で発見されたもの。当時、大自然に生きる動物は神だったのでしょうか。Composition of Photographs/Takeshi Higo



## CONTENTS

### 特集

夏の日の親子対話のために——

君よ「抽象概念」を語れ 黛りんたろう ..... 4

海外帰国子女は日本を変えられるか？

——国際文化交流学部を擁し、この春スタートした学習院女子大学にみる国際化時代の教育の果たす役割 ..... 36



●楽園の色(3)

「青」菅原令子 ..... 1

●地球快適講座／豊かさのできる事(9)

クリスティーナ・ノーブル財団子供基金 ..... 15

●オブリージ・エッセンス

[演劇]池田有希子 ..... 18 [医学]中原英臣 ..... 23

[スポーツ]佐々木明子 ..... 26

●人物クローズアップ

池坊保子(衆議院議員) ..... 19

●OB・OG・エアメール(3)

フィンランド・ヘルシンキ ..... 24

●雪三郎イズム(3)

流行の方法論 渡辺雪三郎 ..... 42

●食卓の四季(3)

マッシュルーム 江上種英 ..... 44



誌上夏期講座／経済より人を豊かにするもの

世界遺産に認定された  
白神山地にみる自然と人間の共生 江川正幸 ..... 10

クロアチア探訪記

ここは、かつて戦場だった——。石井信平 ..... 14

CAMERA JUN・ABE  
MASAYUKI・EGAWA  
KAZUHIKO・MATSUSHIMA  
TAKEO・HAYASHI  
HIROAKI・TSUKAMOTO  
ILLUST YUJI・HIRAYAMA  
FUMIE・WADA  
YUKISABUROH・WATANABE  
LAYOUT artpost  
(KIMIKO・TAKIGUCHI  
YUKI・SAEKI)  
EDITOR YUKO・KUDOH  
KAORU・SUZUKI  
SPECIAL-THANKS FUJINGAHO・SHA  
CREATION I SAY

座談会

編集ボランティア奮闘談 ..... 27

OBLIGE CLUB

櫻友クラブからのお知らせ ..... 30

TOPICS

櫻友クラブ運営委員会 吉江隆信 ..... 33





# 君よ 「抽象概念」 を語れ

特集

夏の日の親子対話のために

リゾート地として知られる、インドネシアのバリ島では、家事一切を母親が取りしきり、父親はほとんど働かないという。父親は何をしているのかと、男女平等論者でなくとも気になるが、これが子供に、「抽象概念」を語るのだという。日がな一日、田圃の畦道に腰をおろし、息子や娘たちに、空を、雲を、風を、光を、それがいかなるものかを語るのだという。もちろん、そこにおわす神々のことも――。

我々は労働は尊いことだと教えられ、そう信じて生きてきた。それが日本の経済的繁栄をもたらしたものだとは知ってはいるが、そこに重大な何かが欠けていると思う人に、この特集を贈りたい。

写真提供／株式会社 地中海クラブ

NHKドラマ番組部チーフディレクター  
（昭51哲） 麻りんたろう

まゆずみ・りんたろう／1953（昭和28）年東京生まれ。学習院初等科、中等科、高等科から、昭和51年学習院大学文学部哲学科卒業。NHK 京都勤務を経て現NHK ドラマ番組部チーフディレクター。代表作に映画『RAMPO』（松竹）、NHK 大河ドラマ『花の乱』、『秀吉』、ドラマスペシャル『ウサギの休日』、『ダックスフントのワープ』、土曜ドラマ『風になれ鳥になれ』、水曜ドラマ『鏡は眠らない』、ハイビジョンドキュメンタリー『シド・ミードの世界』舞台演出『花のほかに』（青春芸術村公演）など



# 誇り

■Pride■

はたして「誇り」が、今回の特集企画であるところの「抽象概念」の範疇に入るかどうか、いささか疑問視される危惧がないとはいえない。

しかし今日、たとえば「援助交際」をする女子高生たちに、「誇り高い人生について」問いただした時、質問の意味を正確に把握する割合は、きわめて低いのではないだろうか、という仮説のもとに、この語に抽象概念の仲間入りをさせてみることにする。

「誇り」について思いをめぐらす時、まず立ち現れてくる光景がある。場所は学習院初等科の講堂、時は昭和三十年代中頃の、天皇誕生日の日の午前中である。整然と起立した我々生徒たちの正面の演壇に、司会役から紹介された、当時の学習院長・安倍能成氏が、ステッキを手にゆつくりと進んでくる。

白髪白眉の氏の全身から、広い講堂をしっかりとさせる厳かなものが放射されている。それまで騒いでいた生徒も、もはや一言も発さず白い歯すら見せる者はいない。

安倍氏は当時、すでにかなり高齢であらせられたはずだが、年齢のもたらす衰微をはるかに凌駕する確かな何物かが、そこにはあった。氏は、演壇で繰り返し、こう述べられた。「嘘をつかない、誤魔化しをしない、正直」こそ最重要である。そして天皇誕生日方を三唱して、閉会となる。

安倍氏は、その後しばらくして鬼籍に入られたので、氏の生前の姿を見ることができたのは幸運であつたといわねばなるまい。氏の「嘘をつかない」という言葉は、ただ単に、道徳的な戒めを施したのではない、もつと深い何かを我々生徒に感じさせた。それこそ、「誇り」を持つて生きろ、ということだったのだと、私は了解している。すなわち、正直であることを名誉として生きよ、と。

当時日本は、池田勇人内閣の提唱した所得倍増計画のただ中で、日本中が繁栄を夢みて邁進していた時代だった。東京オリンピックが近いことも、大きな弾みを与えていた。ともすれば、経済発展に奉仕するもの以外は意味を失う時



※1 どもん・けん／1909年～1990年没。写真家。報道写真の鬼と呼ばれた、リアリズム写真を確立した写真界の巨匠。1959年に『日本風土記』、『古寺巡礼』、『民族の美』の一連の写真で芸術選奨を受賞。出身地山形県酒田市に、日本最初の写真専門美術館として土門拳記念館が設立された。個人の写真記念館としては世界でも唯一である。

※2 しまざき・とうそん／1872年～1943年没。詩人・小説家。初期の別号に古藤庵無声（ことうあんむせい）、無名氏などがある。1893年創刊の『文学界』において、初期浪漫主義文学運動に参加し、その後『若菜集』及び『一葉舟』所収の詩編を制作、散文作家の道を歩みはじめ、田山花袋と共に自然主義の代表作家と目されている。その他主な著作には『破戒』、『桜の実の熟する時』等。

※3 しが・なおや／1883年～1971年没。小説家。学習院高等科在学中から随作を始める。1910年に有島武郎、里見、武者小路実篤らと同人雑誌『白樺』を発刊。感情的、感覚的把握に優れ、特に短編の完成度は高く近代日本文学を代表する。1949年文化勲章受章。主な著作は、『城の崎にて』、『網走まで』、『小僧の神様』、『暗夜行路』等。

代になり始めていた。明治生まれの安倍氏の、哲学者、教育者としての一徹な思考、生き方は、当時にあつて既に、今日の異様な文化的、教育的行き詰まりを予見されて、我々生徒に警告をされていたのではないだろうか。繁栄のもたらした幸福を実感したのも束の間、いまや日本人は、引き換えに手放してしまったものの大きさに狼狽（ろうたい）している。

失われたもの——その最たるものは、「誇り」なのかもしれない。冒頭、現代の女子高生に批判的な仮説を立てたけれども、彼女たちは「誇り」を持つて生きる親や教師や大人たちを日頃見る機会がないから、抽象概念としてしか、この語は存在しないだろう。彼女たちにとっては、自分の身体を売ってでもブランド商品を手にかけることが「誇り」なのだろうか。ひとたび手放したものは、そう簡単には取り返すことができない。かつてこの国に「誇り」が存在したことすら、忘れ去られようとしていると断ずるのは悲観的にすぎるか？

私の手元に、写真家・土門拳の『風貌』という写真集がある。

島崎藤村、志賀直哉らの写真に続いて、我が安倍能成氏の姿を見ることが出来る。

モノクロームのフィルムに写し撮られた、これら明治生まれの作家、文化人、科学者、芸術家たちの風貌は、我々が失ってしまったものに満ちて、今なお、輝いている——。



**Oblige** 6



## 死

近頃、やたらと自殺にまつわるニュースに満ちている。不況を反映した中小企業の経営者の自殺、汚職の疑いを受けた政治家の自殺、銀行関係者の自殺、いじめによる自殺、映画監督の自殺、ロック歌手の自殺……。

ことにX-JAPANのメンバーの自殺によるファンの後追い自殺は、さすがに世の大人たちを戸惑わせたに違いない。

かつて明治天皇が崩御された時、学習院院長・乃木希典大将御夫妻が後を追われたが、平成の御代では、若者は、彼らのカリスマの死に自らの命を寄り添わせる。

死は死であり、抽象概念というよりは、極めて切実かつ具体的に我々に降りかかってくるのであるが、医学的な死の基準がどうであれ、死は永遠に謎であり、不可知なものであり続ける。

かつて私が、哲学科の学生だった頃、カントの『純粋理性批判』の中で、スウェーデンボリの霊界旅行のくだりに興じたものであるが、最近でも立花隆の『臨死体験』等、死に関する研究書が人々の注

※1 ドイツの哲学者カントの最初の著書で、1781年刊行される。人間の理性は、感性の「ア・プリオリ（先天的）」な道德原理を含むものであり、超経験的な世界についての形而上学的認識は、理論理性には到達不可能。従って、実践理性による補完を持たざるを得ない、と結論づけた。

※2 エマヌエル・スウェーデンボリ。1688年～1772年没。哲学者・科学者・神秘家。IQ 200を超える天才と呼ばれ学者として活躍するが、後に霊的覚醒を受けたとして心靈学的研究を進め、神秘論を展開する。心靈研究として書いた『霊界日記』は死後の世界について詳細に述べ、自ら新教会を展開。多くの信者を集めた。

※3 万有の究極的存在を非物質的、精神的、生命的なものと考え、物質や非生命的なものは一元的に解明できるとする哲学的立場。唯物論に対立する。

目を集めている。

改めていうまでもないことだが、古来より、死に関しては大きく二つに分類されてきた。すなわち死しても魂は残り、輪廻してゆくのだ、という考え方と、死はすべての消滅であり、つまり一切が滅することなのだ、という考え方と。

前者は唯心論、宗教の立場であり、後者は唯物論の立場である。

奈良薬師寺のかつての管長・橋本胤胤氏は、天動説を唱え続けられた唯心論者であらせられた。

私が高等科の頃、縁あって薬師寺で奉公の真似事をさせていただいたことがあったが、氏の御高説の一部を拝聴する機会を得たことがあった。

「誰も、地球が動いていることを感じたり、意識した者はいない。

でも、朝になるとお日様が昇り、夕方になると沈むのは毎日みなが見たり意識したりしている。したがって、動いているのは天のほうである」というシンプルかつ明快な言葉は、科学的でないことを超越して、私には不思議な説得力をもって響いた。

「科学を極めると宗教に近づく」ということがよくいわれるが、宇宙も自然も、森羅万象は皆、心の象である、という仏教の教えは、科学万能主義に行き詰まりを感じ始めている現代人の深部に、じんわりと浸透し、癒すように思えてならない。

前述の『臨死体験』では、さまざまな実験データの細密な検証のち、「幽体離脱は脳の幻覚作用の域を出ない」というところに落ち着くのであるが、この結論にどこか寂しさを感じてしまう私は、たぶんセンチメンタリストなのだろう。「命あるもの、皆死んだら終わり」という潔さを学ばねばと思いつつも、私は輪廻転生のほうに惹かれてしまう。

最近とみに、自分は何物かの力によって「生かされている」と感ずることが多い。

「自分がどこから来て、どこへゆくのか」は、文学、哲学、宗教、科学共通のテーマだが、自分にも確実に行きつくる死を思う時、それは宇宙を動かす超越的意思によるものだ、と了解している。

※4 物質を第一次的、根本的な実在と考え、精神的、非物質的なものを二次的、派生的なもののみならず、哲学的立場。初期ギリシア哲学に既にこの考え方は現れており、ソクラテス、プラトン以後、マルクス・エンゲルスが弁証法的唯物論を確立。

※5 はしもと・ぎょういん／1897年～1978年没。宗教家、法相宗第126代管長。法相宗大本山薬師寺管主を経て法相宗管長に就任。精力的な行動は、薬師寺の金堂、薬師三尊の修復のほか、世界宗教者平和使節団に加わり核兵器禁止を訴えるなど広範囲にわたる。

※6 仏教およびインド哲学の術語。生命あるもの（衆生）は、死んでもそれで終わりではなく、また生まれ変わって生を繰り返すという思想。





# 家族

かれこれ七、八年前のことになるが、ドイツの映画監督ヴィム・ヴェンダースの映画のメイキング（撮影プロセスをドキュメンタリーとして追いかける）をしたことがある。

彼は小津安二郎監督を神のごとく信奉しており、自作の映画『ペルリン・天使の詩』の最後に、「この映画を小津に捧げる」という献辞をしたり、小津映画に関するドキュメンタリーといえる『東京画』の中では、鎌倉にある小津の墓に詣でたり、小津映画のカメラマンだった原田雄春にインタビューをしたりしている。

小津安二郎は、日本の市井の家族の日常を淡々と見つめながら、その家族のゆるやかな崩壊、喪失を繰り返し描きつづけた映画作家である。

ごくありふれた家族を題材にとりながら、しかし、小津の映画が日常性をはるかに超えて、神話的

でさえあることが、ヴェンダースをはじめ、多くの小津ファンの心をとらえて離さない魅力であり、謎である。

小津映画が神話性を持つ理由を恐れずいえば、そこには、神話的次元での「家族」が存在するからだ、と私は思う。

小津映画に描かれる「家族」では、守るべき清らかさ、ともいってべき「心ばえ」が首尾一貫して持続する。

たとえば、嫁くことが決まった娘の、孤独な老父に対するいたわりと愛惜、娘を嫁がせる父親の複雑な思いなどが、ほとんど近親相姦ぎりぎりの線まで高まってゆきのち、いいようのない無常が観る者の胸に迫ってくる。

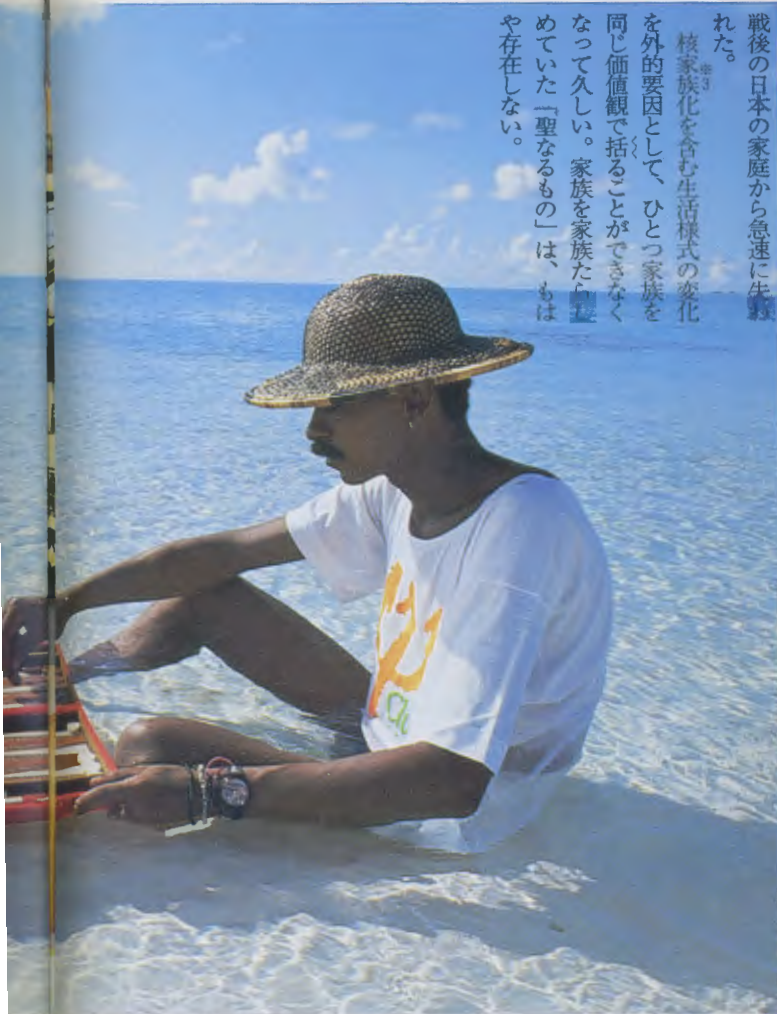
家族が家族であるための、さまざまな「心ばえ」「心馳せ」は、戦後の日本の家庭から急速に失われた。

核家族化を含む生活様式の変化を外因として、ひとつ家族を同じ価値観で括ることができなくなつて久しい。家族を家族たらしめていた「聖なるもの」は、もはや存在しない。

※1 ドイツの映画監督。1945年～。ロードムービー3部作と呼ばれる、『都会のアリス』、『まわり道』、『さすらい』で若手映画監督として注目を集める。その後フランス・コッポラに呼ばれて渡米。87年には、『ペルリン・天使の詩』で2度目のカンヌ映画祭グランプリを受賞した。91年東京国際映画祭では『夢の涯てまでも』を出品、ハイビジョン技術を融合させた画期的な映画として話題を呼んだ。

※2 おづ・やすじろう/1903年～1963年没。映画監督、脚本家。松竹キネマ蒲田撮影所にて撮影助手、助監督を経て映画監督となる。63年没するも、70年頃より国内のみならず海外においても再び注目を集め始めている。主な作品として『東京物語』、『早春』、『秋日和』、『秋刀魚の味』等。

※3 夫婦とその子供のみで構成される小家族。意味合いとしてあらゆる家族形態の基本単位という主張を含んでいる。近年日本における家族形態はほとんどがこの種類。



小津映画を観ることは、もはや存在しない聖なるもの、存在しない家族という神話に触れ、癒しを受けることである。

——家族という神話を喪失した我々は、どこへゆくのか？

前述のヴェンダースの『パリ、テキサス』では、家族を捨てて旅立った妻が、風営店のマジックミラー越しに亭主と対面するが、もはやふたりは家族として復活することができない。

家族を喪失した者は、個のレベルでさまようしかない。

さまようことを出発点にするしかない。

当時のヴェンダースは、世界中をさまよって究極のロードムービーを創る、文字通り旅人だった。聞けば彼自身、離婚経験者で、恋人であった女性ともうまくいっていない様子だった。彼は自作の中で、人の心の内の嘆きを聞くことができる天使を登場させたが、家族を失った者は、ぶつぶつと、ひとり密かに見えない天使に向かって呟き続けるしかないのである。多かれ少なかれ、我々現代人は荒野をさまよう旅人である。



# 君よ「抽象概念」を語れ

## 夢

### ■Dream■

※1 源義家の孫義康を祖とする、清和源氏の流れを汲む。足利尊氏の時、後醍醐天皇に対抗して光明天皇を擁立し、室町幕府を開設(南北朝時代)。3代将軍義満の代には南北朝の合一に成功、足利氏が天下を握るところとなる。

※2 紫式部著の、平安時代を代表する物語の主人公・光源氏の本妻。左大臣の娘で、光源氏が元服後政略結婚した。

※3 1741年~1825年没。スイスの画家。ミケランジェロに多大な影響を受け、強迫観念や幻想性を強く表すロマン主義

的な作品が多い。『夢魔』はフュースリの名を高めた代表作。

※4 1840年~1916年没。フランスの画家・版画家。もっぱら木炭素描と石版画という、白と黒のみによる独創的な表現で、『夢の中で』は、巨大な眼球が暗闇に浮かび出る『幻』ほか13葉のルドン最初の石版画集である。

※5 1827年~1901年没。スイスの画家。技巧に優れ、色彩感覚にも恵まれていたため、絵画の技法や、構図について種々の実験を試み、油彩、テンペラなど

様々技法を併用した。『死の島』はベックリンの作品の中でも最も人気のあるもののひとつで、全部で5点のバージョンがあるが、そのうち1点は所在不明。

※6 1997年7月に公開された長編アニメーション映画。監督は宮崎駿。山神をめぐる人間と獣の争いから、獣に育てられた「もののけ姫」少女サンと少年アシタカがそれぞれの信念を見出していくストーリーは、宮崎監督の集大成。入場人員1200万人、配給収入約97億円の日本記録を樹立。

Text by Yoshiko Kaji

数年前、室町時代の足利将軍のドラマを監督したことがあった。また最近、必要あって『源氏物語』の一部を再読した。

これらの時代、『夢』には現実に影響を及ぼす力がある、と考えられていた。「夢」の力とは、「目に見えぬもの」を信じ、恐れることである。

中世では、死霊のみならず生き霊も登場し、生きている人間にとり憑き、狂わせ、暴れ回る。有名な源氏物語の「葵の上」などその典型である。

また、ヨーロッパ絵画の世界に目を転じて、フュースリの『夢魔』や、ルドンの『夢の中で』、ベックリンの『死の島』など有名な作

品がすぐ思い浮かぶ。「夢」の力とは、意識の闇に意味を与えることである。

意識の闇を駆逐することが、近代という時代だった、と独断すれば、現代は、ふたたび意識の闇に人々の関心が向いている、といえるのであろう。

オウムの問題にしても、アニメ『もののけ姫』の大ヒットにしても、近頃は、可視的なものより不可視的なもののほうが、人々の心を吸い寄せる呪力がある。それは、現実の生活に夢がないことの裏返しである。

やはり人は、現実原則だけでは生きられないのだろう。

いじめも、家庭内暴力も、夢を

持つことを禁じられたことに対する暴発のように思えてならない。ことに子供にとって、「夢」はとても重要である。

かつて初等科時代、私は決してできるいい生徒ではなかったが、ある理科の先生の授業だけは面白く、一時的だが成績がグンと上がったことがあった。

その授業は、予想実験学習といって、まず生徒に予想を立てさせ、しかるのちに実験をして、予想が的中したかどうか、なぜ的中したか、はたまたなぜ的中しなかったか、を論議する方式だった。

なぜこの授業が面白かったか、今になってわかった。

その授業には、「夢」があった

のである。

その先生は、我々生徒たちの想像力を喚起し、期待を膨らませたのである。教科書をなぞる学習にうんざりしていた生徒たちは、一気に魅了された。

同時に、その先生自身の魅力も忘れてはならない。

その先生は、いかに生徒の心を掴むか、いかに夢のある授業を実現するか、情熱を傾注しておられたに違いない。

我々生徒は、その先生の夢の力に動かされたのである。

つい二年前、なんとその先生から私の仕事場に電話が入った。たまたま私の名前をテレビの画面に発見し、連絡をくださったのである。数日後、お目にかかることができ、私は初等科時代の授業の話をして上げた。

氏は、何と現在も、別の学校でその方式を実行されており、高い評価を得ていること、さらに全国の学校や教育機関に、請われて講演を続けておられることなどを話してくださった。

三十年経った今も、氏が教育者として夢を燃やし続けておられることに、私は感動した。

同時に氏の若々しさにも驚かされた。とうに六十歳を過ぎておられるはずであるにもかかわらず、氏の瞳は輝いており、全身からは青年の持つエネルギーが発散されていたのである。

中世の闇を支配した「夢」も魅力的だが、人に希望を与える「夢」は、さらに魅力的である。







上  
期  
座  
談  
誌  
夏  
講

経済より人を豊かにするもの  
世界遺産に認定された

# 白神山地にみる 自然と人間の共生

写真と文 江川正幸  
Map/Takeshi Higo

Oblige 10

自国の自然を大切に——と口ばかりで実行しないのが大人。ところが世界がそれを認めるとビックリしてにわか擁護者へ。そんな浅薄な大人にならないためのカリキュラムです。



6月下旬、モリアケガエルの産卵が見られる。

スガワ、まさゆき / 1954年、北海道生まれ。弘前大学にて正木道三教授のもとで動物生態学、行動学を学ぶ。76年卒業後、野生動物をこよひ自然の世界を、研究と映像記録によって表現する自然生態写真家として広く活動。82年、青森県芸術文化奨励賞受賞。著書に『ニホンカモシカ』（平凡社）、『日本の動物』（編著、旺文社）、『下北半島のサル』（岩崎書店）、『白神山地』（朝日新聞社）などがある。青森市在住。



初夏の白神山地最高峰、向白神岳(1,243 m)を付近の吉ヶ峰から望む。左手には青森県側のブナ原生林樹海が広がり、奥に秋田県側の山が見える。(97年7月6日撮影)

白神山地でのクマゲラの繁殖は長い間、幻となっていたが、この10年間、少数ながら観察してきた。(98年5月29日撮影)



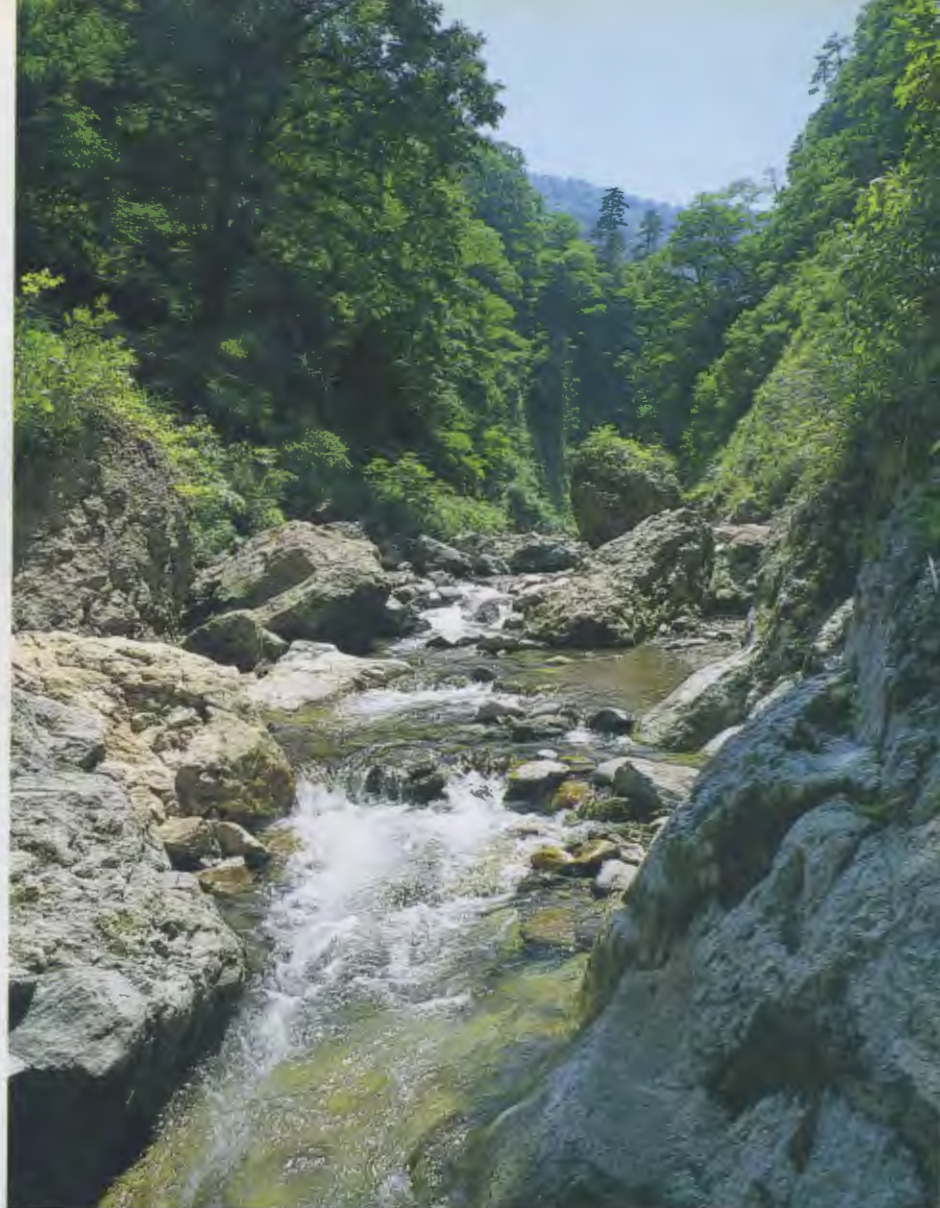


左／白神山地は岩木川など大きな川の源流域となり、流れる水は清冽を極める。(93年7月8日撮影)  
下／溪谷深く生息するシジミチョウ科のオオゴマシジミ。稀少種。



## 現

在は世界自然遺産となつてい  
る著名な白神山地も、かつて  
は青森県と秋田県の県境に広  
がるだけの無名な秘境の山地だった。  
今から26年前、私は動物写真家にな  
ることを目指し、18歳で北海道小樽市  
から青森県弘前市に大学進学をきつ  
かへに移住した。弘前市は後背地にリン  
ゴ園が広がり、奥地に白神山地があつ  
たので、私はよく、カエルやサンショ  
ウオオなどの撮影に自転車で出かけた  
ものだ。その当時からクマタカが飛ん  
でいたり、トウホクノウサギの子供に  
も出会つたし、初夏になるとタニウツ



ギのピンク色の花がにぎやかに咲き、  
川の中ではカジカガエルの美しい声を  
聞いた。

生まれ育つた北海道とは、一味違つ  
本州特有の自然のにぎわいと、安らぎ  
がその山ふところにあり、いろいろな  
花や、生き物たちとの対話を求めて山  
地の一角に分け入り、自然観察をする  
ことが多くなり、下宿もより山に近い  
ところに引越した。ヤマセミのような  
美しい鳥の巣を初めて見て感激したの  
も、この山中だった。

しかし、白神山地の広さは、弘前市  
南部から、日本海側の西海岸線に至る  
一帯の約13万ヘクタールであり、当時  
の私にとってはそのほとんどが、入り  
込むことのできない鬱蒼とした森の、  
暗黒山地だった。山間部は弘前市の  
約2倍の豪雪地であり、そこに住む人  
たちはリンゴ園や水田を営む傍ら、熊  
(ツキノワグマ)を狩り、山菜を採つ  
て生活を支えている。

その姿は今日も変わらないが、私が  
青森県に移住した当時、マタギが熊の  
刺し身を食べてかかる奇妙な寄生虫病



蜂の岩場で出会ったムササビ。

左／源流域の花トガクシショウマ。

中／初夏に源流域の岩場に咲く、“白神”の  
名がつけられたシラカミクワガタ。右／岩  
場に咲く珍種、アオモリマンテマ。(92年  
2月2日撮影)







右上／入山は核心部で規制があるが周辺部の登山道は自由に利用できる。これは県境の山頂。ニッ森へ行く登山道。登山道以外へはガイドがつくエコ・ツアーが必要だが、白神山地でそのシステムは未整備。上／山菜を採る人々。左はゼンマイで右はタケノコ。5月中旬～6月中旬がピークだが早春から盛夏までさまざまなものがある。



## 山に入って知る本質

しかし、考え続けるだけでは白神山地の本質をとらえることはできない。かといって、すぐにマタギに会おうとしても他の若者を受け入れるほどマタギの世界は甘くないことは私にもわかっていった。当時は白神山地は「近くの奥深い山」くらいの感覚で、私の本格

的な山歩きと原生林との付き合いは、下北半島の最北の山地からスタートした。サルやカモシカの暮す地でそれ以後、ほぼ10年間は下北の山中で過ごし、私もいつしか道なき原生林歩きのスペシャリストになっていた。

私が弘前大学探検部OB会と共に、初めて本格的に白神の山中で源流探索をしたのは79年のこと。多雪による川の水の豊かさは、単独行では危険極まりない、入山困難な山地であることを改めて痛感させられた。

しかし一方で、中に入って得られた感動の質の高さには格別なものがあつた。それはひと口には説明できないものである。

写真はそのことを言葉ではなく、映像で表現できることが利点だ。樹々の原生的な生命感に言うに及ばず、生命のなはずの水、そして石さえも、その中では原生自然の力によって命あるものに見えてくるのだった。私自身も1匹のサル、1頭のカモシカになって周囲の風景を眺める——そんな野生の感覚を呼び起こしてくれる日本で数少ないところ、それが白神山地だ。いまだ知られることのないその内部の価値は、93年12月、ユネスコの世界自然遺産に登録されたことによって世界的なものとなり、白神山地全体の8分の1に当たる核心部

## 世界遺産とは

**世**界遺産は、保存したくともその技術がなかったり、財政的に困難であったりします。そのため1970年の第16回ユネスコ総会後、「普遍的価値を有する記念工作物、建造物および遺跡の国際的保護に関する条約案」が準備されました。世界遺産は文化遺産と自然遺産の2つに大別されます。文化遺産は、(1)独自の芸術的業績と天才的な創造の傑作、(2)時間を越え、世界の文化の中で建築物、記念物、都市計画、造園技術などの発展に大きな影響を及ぼし、(3)失われた文明に無類の、あるいは特別な影響を及ぼしたもの、(4)歴史のある重要な段階を示す構造形式であり、(5)ある文化を代表する伝統的な住居地の顕著な例で、(6)普遍的な重要性を持っている概念や信念あるいは出来事に関連し、デザイン、材質、技量、配置の真正さのテストに合格したもの。

また自然遺産は、(1)地球の進化の歴史のある段階を顕著に例示しており、(2)現在進行中の重要な地質学的過程、生物学的進化、自然環境と人との相互関係を顕著に例示していること、(3)すばらしい自然現象や地形、稀にみる自然美の地域を含んでおり、(4)絶滅の恐れのある動植物であって、科学上、保全上の観点から、普遍的な価値のあるものがそこで今も生き延びている、意義深い自然生息地を含むもの。

### 主な世界遺産

自然遺産としてグランドキャニオン国立公園(米)、グレートバリアリーフ(豪)。文化遺産としては、エジプトのピラミッド、中国の万里の長城。複合遺産としてはペルーのマチュピチュ遺跡などがあります。

## マタギとクマゲラ

83年秋、私は初めて青森県側西目屋村のマタギと山中へ同行する夢がかなえられた。

マタギの名は工藤成元翁。当時60歳近いお年だった、白神山地の自然保護のために結成された、日本自然保護協会の調査行の案内役をかって出てくれた。白神山地保存の功労者であり、最後の本物のマタギだった。

前年に発表された、白神山地の春秋林道計画による伐採から、この類い稀なブナの原生林を守ろうと、まず地元から調査し、その自然の貴重さをアピールすることから、保護運動は開始され、私も写真家の立場からその運動をサポートした。

その時にいち早くクマゲラの巣が発見され、その後の観察によって生態も知られるようになって保護運動に大きなはずみとなり、数年後には林道計画が中止されることになった。

その間、いろいろないきさつはあったが、私はこうして四半世紀の間、白神山地の隣に住み、山中奥深くに入っていくなかで、山で生活するさまざまな人々にも出会い、学び、保護を訴えてきた。その結果、世界自然遺産登録という大きな成果を、同じ運動をしてきた多くの人たちと心から楽しむことができた幸せを感じている。

これからは私はこの大自然を専門にする多くの人々に出会い、時には一緒に山に入り、困難をものともしない楽しさやロマンを持ち続けることによつて、この壮大な山地の森の本質に、一歩でも二歩でも近づくような仕事を発表し続けていきたい。

この生命力の豊かな白神山地は、21世紀の人々に渡すべき、未知の贈り物なのである。





トゥーラン村の、砲弾で破壊されたアパート。



国道沿いで、チーズを売る少女。

日本が初出場を果たした  
サッカーW杯フランス大会で  
日本の決勝トーナメント進出  
の夢を碎いた国。普通の  
人はこれくらいしか知らない。  
でも、我々が平和と繁栄を  
うんざりするくらい  
享受していたのと同じ頃、  
ここが戦場だったことを、  
どれくらいの人が  
知っているのだろうか……。

## ここは、かつて 戦場だった――。

**ク** ロアチア政府に招待されたジャーナリスト10余名の一人として、首都のザグレブに向かったのは、5月末だった。成田空港出発ロビーには、大きな横断幕がかかっていた。「ワールドカップ98フランス大会、がんばれ、日本代表チーム！」。

偏狭なナショナリズムと笑うこともできよう。国際空港の玄関先に、身内だけへの応援はみつともない、とも言える。しかし、かつてカーキ色の軍服で続々と外地の戦場に出掛けたことを思えば、今は、いい時代になったのだ、と思いたい。

飛行機をフランクフルトで乗り換え、首都ザグレブ空港に着いた。「クロアチアがんばれ！」の横断幕はなかった。着いた翌日、まづ案内されたのが郊外のミロゴイという墓地だった。ちょうど5月30日、この国の独立記念日に当たる。

広大な墓地の一角に、人が多く集まっていた。先の戦争で死んだ若い兵士たちの墓だ。新鮮な花が飾られ、ローソクが立てられ、初老の夫婦や兄弟が相寄って、石や十字架を布で洗い清めていた。こちらの墓にはどれも写真がはめこまれ、生年と没年が彫られている。イワン・ブランコビッチ、19歳。軍帽をかぶった少年の顔写真が笑っている。

この墓地で印象的だったのは、墓石の足元に、木のベンチが置かれているのを幾つか見たことだ。遺族が、友が、恋人が、死者を忘れられずに訪ねて座るベンチ……。そこで石に触れ、石に語り、空を見上げ、木々の風に吹かれながら、しばし死者に語りかける場所である。墓地は、死者のためではなく、生

き残った者に残された安らぎの場所なのだ。今やコインロッカーと化した日本の墓は、そのまま、そこで生きている日本人のありようを反映している、と言えないか？ 私たちは木々の風よりも、すべてを効率第一で詰め合わせた暮らしを選択してしまったのだ。

ザグレブは活気ある首都で、街を歩く限り、社会や商業の活動も回復したと見受けた。いや、旧ユーゴスラビアから独立し、徹底的な西欧型・自由化路線を歩む今は、修正社会主義のかつてとは比べようのない明るさと活気を呈している、と言うべきだろう。街の至るところに化粧品やコンピュータなどの「西側」広告があふれていた。クロアチア版「フレイボーイ」誌は、どこの新聞スタンドでも売っている。表紙には、サッカーW杯のクロアチアチームのシャツを着た、セミヌードのグラマーな女が笑っている。私が見た、唯一の「サッカー熱」だった。

ここに戦争の跡を探するのは困難だ。雑踏のなかで、建物の角にうずくまっている少女がいる。片足を折り、伸ばしているはずのもう一方の足は、膝から下がない。切断された面の白さだけが目に焼き付く。布で隠さないで、そこをあえて見せて投げ銭を待つ恥ずかしさを選んだ、少女の選択。……首都で見た戦争の傷跡はそれだけだった。

ザグレブの郊外、国道沿いにトゥーランという小さな村がある。「クロアチアのアヒロシマです」。案内のブランコが言う。砲撃で、家々の屋根が大きく破壊され、落ちた砲弾で4階建てのアパートの床が、次々に抜けている様子が今もそのままだ。壁に、無数の弾痕

がある。ここで人が死に、傷つき、人の住めない村になったまま放置されている。

それでも、廃屋の傍らにパラソルが広げられ、少女が一人、野菜と果物を売っていた。道沿いの露店売りは、大抵女性だ。野の花、自家製のチーズやジャム、蜂蜜などを売っていた。この女性たちと大地は、生き生きと生きることを、生産することをやめない。それがこの国の希望だ。

首都を遠く離れ、アドリア海の沿岸の街に立つて、戦争を想起するのはむずかしい。ザダール、スプリット、ドゥブロヴニク……これほど美しい街があったのか、というのが実感だ。街と海の調和、人々の明るさがいい。歴史ある石畳とエビ茶色の建物がいい。大きな木陰でくつろげる、オープン・カフェがいい。海からの乾いたそよ風をうけながら、カプチーノをすすった。91年、セルビアの軍隊が、世界遺産にも認定された、歴史ある街を砲撃して、クロアチア国民の士気をそぐうとした、それほど突出した美しさが、ここにはある。

美しさの中に傷は隠される。ナショナリズムの高揚の果てに、人は他国の人間を殺すのだ。19歳のイワンの命も少女の片足も、そうして奪われた。クロアチア国歌の冒頭は「美しいわが祖国、英雄が生まれる国……」である。成田空港の「がんばれ日本」の情念が、やがて武器を取らない保証はあるだろうか？ 唐突だが、国のためではなく、ノーブレス・オブリージのためならば、血を流したいと思った。守るに足る美しさが、この世にはある、それを教えてくれた旅だった。

いい・しんべい／出版・映像プロデューサー。1942年生まれ。同志社大学卒業後、筑摩書房、テレビマンユニオンを経て独立。NTV『歌は国境を越えて』でギャラクシー賞受賞。イアン・ブルマー『戦争の記憶・日本人とドイツ人(TBSブリタニカ)』を翻訳。



# 地球快適講座

## 豊かさのできること9

### クリスティーナ・ノーブル財団子供基金

#### キャリア・ウーマンのキャロルがクリスティーナ・ノーブル財団子供基金に見つけた喜び

ベトナムやモンゴルのストリート・チルドレンを救済するために子供基金を設立し、積極的な救済活動を行っているクリスティーナ・ノーブル。そして日本でその支援活動を行っているキャロル・ウォルフソンさんを紹介しよう。

Photographer/Kazuhiko Matsushima Text by Akemi Imamura Cooperation/Lorain Joyce Reinbold



上/クリスティーナ自身が資金集めに来日した時のスナップ。東京の清泉インターナショナルでキャロルたちは、6か月間で600万円もの基金を集めた。右/「悲しみの向こう岸」(Bridge Across My Sorrows) 94年に出版されたクリスティーナ・ノーブルの自伝。



信念で愛を貫き通す人。  
喜んでそれをサポートする人。  
だから、生きる喜びが生まれる。



キャロル・ウォルフソンさん  
1961年、アメリカのシカゴ生まれ。ノース・ウエスタン大学でジャーナリズムと経済を専攻。80年中国に渡り、輸出入のビジネスを自ら始める。その後修士号取得。アナリストとしての経験もある。上海、台湾、香港などで16年間仕事を続け、現在、東京でコンサルティング会社を経営している。アイルランド人の夫マイケルと2人暮らし。



**恵** 比寿にある瀟洒なマンションに、キャロル・ウォルフソンさんを訪ねた。16年間東南アジアの各国で過ごす間に蒐集した趣味の良い骨董品が飾られたリビングルームで、キャロルはクリスティーナ・ノーブル(以下CN)財団子供基金と、その創設者クリスティーナ・ノーブルについて話してくれた。

赤毛に明るい茶色の目をしたキャロルはアメリカ人にしてはやや小柄で、歯切れの良い少し早口気味の話し方は、いかにも彼女が有能なビジネス・ウーマンであることを感じさせる。「ママ・チーナ」、「サイゴン天使」と呼ばれ慕われているクリスティーナ・ノーブルの、たつぷりとした体つきや母牛のような優しい目、そしてのおびりとしたアイルランド訛りとはいかにも対照的である。

アメリカやアジアのビジネスの先端で仕事をし、また現在アイルランド政府産業振興省の日本代表である優しい夫マイケルにも恵まれたキャロル。そんな彼女が語ってくれたクリスティーナの半生や、ベトナムやモンゴルのストリート・チルドレンの現実、あまりにも暗く重い。キャロルの東京での生活と比べると光と影ほど違う。

称賛の言葉より、  
子供たちの笑顔が。

CHRISTINA NOBLE CHILDREN'S FOUNDATION





病院(下)とその内部(左)。医療センターがホーチミン市に設立されたのが、90年12月24日。週3日無料検診日があり、月600人の子供が診療を受けている。クリスティーナに救われて教育を受け、立派に成長する子供もいるが、死ぬ間際に安らかに死ねるように運び込まれる子供たちが大半である。



ベトナムでのクリスティーナと子供たち。CN財団子供基金は、長期的医療、栄養改善、教育の機会、職業訓練、就職斡旋、そして経済的・性的搾取からの保護を必要としている子供を救うため91年に創立された国際的な共同基金である。クリスティーナは、虐待によって人間不信になっている子供たちに対しては、決して無理強いしない。



## 助けを求める子供の夢を見てベトナムへ。

CN財団子供基金の創立者クリスティーナ・ノープルは1944年アイルランドの首都ダブリンのスラム街に生まれる。父親はアルコール中毒で家庭を顧みず、母親は病死。10歳で孤児院に送られ、14歳でそこを逃げ出し、ダブリンの公園に素手で掘った穴を住処とするストリート・チルドレンになる。飢えと虐待の中で生き延びるだけが精一杯だったクリスティーナは、レイプされ妊娠してしまふ。この壮絶な子供時代の体験が彼女の運動のルーツとなっている。

18歳で英国へ渡ったクリスティーナは、その後結婚して3人の子供をもうけたが、夫の暴力と、それが原因の流産に苦しめられ、精神科で治療を受けるに至った。

苦しみで喘いでいた、その年のある晩、クリスティーナは夢を見た。ナパーム弾の炸裂する中を子供たちが逃げまどう。「どうか私を助けて! 無事なところへ連れて行って!」と懇願するような目で少女が私を見つめていた。その時よ、彼女の頭上に真つ白い光が輝きわたり、ベトナムという文字がはつきり見えたのは……」

神の啓示ともいえるような夢がクリスティーナにベトナム行きを決心させた。それから20年近くの歳月を経て、クリスティーナは夢を実現させたのである。

ベトナムに到着した89年、クリスティーナが持っていたのは、子供たちを助けたいという溢れるばかりの熱い思いだけだった。当初のクリスティーナには文字通り、資金も人脈も信用も、何もなかったのだ。しかし、クリスティーナが活動を開始するや否や、ある石油会社が一万ドルの寄付金を提供してくれ、また彼女自身も資金集めのため、クラブで歌ったり、講演を精力的に行ったりし始めた。

現在では多くの寄付金や外国企業からの支援に恵まれるようになった。90年にはホーチミン市(旧サイゴン)に、捨てられて栄養失調になった子供たちのための医療センターが、また91年にはCN財団子供基金が設立され、学校や職業訓練所の開設に寄与している。

## 幸せとは自分を生きる場を持つこと。

恵まれた生活を送るキャロルたちが、なぜクリスティーナに魅了され、彼女の活動をこれほど親身に応援するのだろうか。キャロルに





# CHRISTINA NOBLE CHILDREN'S FOUNDATION



モンゴルの下水(左)と、中で暮らすストリート・チルドレン(上)。モンゴルでは寒さをしのぐために子供たちは下水の中に潜っている。またここはゴミを働く子供たちの巣窟ともなっている。1990年以来モンゴルは共産主義から自由主義国に変わり、この変化に伴い極度の貧困の増加を招いている。クリスティーナは、今年からこの子供たちの救済や、貧困家庭の子供の教育援助に取り組むことを決めた。そのためにスポンサーを募っている(このスポンサーシップ・プログラムについての詳細はDATA1をご覧ください)。

直接この活動に入った動機を聞いてみた。

「子供の頃からずっとボランティアをやっていたのよ。地球や人間から与えられた恵みは、貰うばかりではなくて、お返ししなければいけないのではないかしら」と彼女はいう。

クリスティーナとの出会いは、91年ベトナムにいた時、夫マイケルが同国人のクリスティーナのことを聞きつけ、夫婦2人で会いに行ったのが始まり。その時は寄付金程度のささやかな援助だった。その後マイケルの転勤により、東京で暮らすようになったキャロルは、CN財団子供基金のための寄付金集めを思いついたのだ。

キャロルはクリスティーナというひとりの思いやりのある、独創的で信念を持った女性に出会ったことで、自分たちの善行の場を見つけることができたのである。

子供もいない、絵に描いたような豊かなDINKSの暮らしがりのキャロル。しかしクリスティーナに接することで、大人に裏切られ、人を信用することができなくなっている、ベトナムやモンゴルのストリート・チルドレンの心も痛くすることができる。そして、彼女の笑顔をひとつでも多く見たいと、募金運動を続けているキャロル。行動は、ノーブレス・オブリージと呼ぶべきものだろう。

クリスティーナの子供たちを助けたという願いは、キャロルとマイケルの現実的な支援によって実現化され、またキャロルの自分の受けた恵みを返したいという望みも、クリスティーナの夢に溢れたアイデアによって崇高なものへと実現化されているのである。

## カードを売った 代金が資金源に。

### DATA 1

CN財団子供基金では、スポンサーを募集中。子供たち一人ひとりにスポンサーを見つけて、自立できるまで継続的に支援するもの。毎月24ドル(約3000円)の寄付金をお願いしている。有志の方は左記までご連絡ください。東京都品川区上大崎2-2-18・101  
キャロル・ウォルフソン 03(3280)4288

### DATA 2

CN財団子供基金にご支援くださる方は左記の口座にお振り込みください。  
シティバンク 東京支店  
名義人/CAROL WOLFSON  
普通口座/3817318  
銀行コード 0401032  
Carol Wolfson  
Citibank, N.A. Makuhari Branch  
Yen Account No. 3817318  
Bank Code No. 0401032



このカードをご購入くださると、その代金がCN財団子供基金の資金の一部になります。彼らにあげない笑顔が宿りますように...



# 演劇

池田有希子 (平5文)

Text by Yukiko Ikeda

## 「毎日が夏休み」、「毎日が仕事」と どちらともいえる私たち役者の生活。

いけだ・ゆきこ／女優。1970年6月東京生まれ。平成5年学習院大学文学部哲学科卒業。アメリカ留学を終え、平成2年3月東京グローブ座で初舞台。TV「大家族デカ2」、「緊急治療室の前」、「お嬢様は名探偵」、CMは「明治生命」などに出演。舞台では今夏、劇団☆新感線公演に出演。

### 皆

さまの中には、役者にも夏休みがあるのだろうか、なんておもしろい方もあるんじゃないか、と。これがあっていい、ないといえど、お答えしたい。私にどうお答えしたいかわからないのです。そこで、昔の日記をひっぱり出して、思い出してみよう。

1990年7月〇日 晴れ

今日は私が学習院大学に入ってから初めての夏休み。高校時代と比べると休みのありがたさはいささか薄らいだ気もするけど、やはり嬉しい（アメリカの高校では6月からたつぷり9月まで夏を満喫した私でした）。今日から、6月中旬から始まった青山劇場「ぼくのシンデレラ」のリハーサルに専念できる。公演は7月下旬から1カ月弱。夏休み中の子供たちが観客の中心となるから「子供向け夏休みミュージカル」と呼ぶ人もいます。が、私としては、子供だましで終わらせたくない。めちゃめちゃ気合も入り、帰国してから初のミュージカルに臨むつもりだ。あーどうぞ、風邪などひきませんように。喉かれませんように。

1993年7月X日 雨

大学生活も4年目を迎え、4回目の夏休み。私が休みに入ったからといって、そう都合よく仕事が無い込むはずもない。暇な毎日。こんな夏はおとなしく自分を磨くしかないですね。大学もそろそろ終わりなんだから、ちゃんと勉強でもしてみよう（?）。

1994年7月△日 曇り

今、私は舞台「ステッピング・アウト」の地方公演で全国各地を回っている。キャスト10名の小人

数で1ヵ月半の旅公演とくれば、旅も半ばを過ぎると皆、家族になる。全員で各地のおいしいものを食べ、たまには明け方まで飲んだくれたり、と楽しいことばかりだけれど、今回の旅公演で私たちが悩ませたものがある。それは「水不足」。北海道、仙台あたりは問題なかったが、九州、四国あたりはかなり厳しい。舞台が終わった後だと、節水時間で水が出なくなるといって、福岡の会館の方々は、洗面用の水を汲み置きしてくださった。四国では、地元の讃岐うどんを食べたいと、水不足で営業できないうどん屋の連なる通りを歩いてみると、「東京からわざわざ芝居をしに来てくださったんだから……」と、店を開けてくれ、とびつきのうどんを出してくれた。人の温かさが不便を越える、いい旅、いい夏だ。

1997年7月〇日 梅雨

そういえば、フルタイムの役者になつてからというもの、ロクな夏休みをとっていない。忙しいことは嬉しいことなので、私はまったくかまわないのだが、私の休みは週末や盆暮れ正月とは関係なく（かえってそんなときこそ忙しかったりする）、仕事の入らないときが休みなので、6月や10月なんて中途半端なときに長期の休みがとれたりもする。今年は4月、5月とテレビドラマの撮影の合間をぬって休みが多かった（多すぎたので、「こんなときは旅行料金も安いし、ロンドンかニューヨークにでも行ってくるか！」などと計画してみたのだが、やめた。そんなときに、私のマネージャーさんは仕事やオーディションを見つけてきてくれるのだ。できるだ

け東京にいたいと思う。で、ちまちま東京でレッスンしたり芝居や映画を観たり、というお決まりパターンになつてしまふのだ。それが嫌いなやいなんだな、まったく。

1998年7月△日 晴れ

それに専念です。暑い夏にぴったりの舞台になるでしょう。私の生活は毎日仕事ともいえるし、毎日夏休みともいえるんですね。だからなかなか、マネージャーさんと「暇は要らない!」なんて話してられるのは……といつも、今年に行きたい。南の島でバカンス!

※「Vampire Strikes Rock」スケジュール  
98年8月27日～31日／大阪道頓堀・中座、  
9月12日～23日／東京サンシャイン劇場にて。お問い合わせは、ヴィレッチ ☎06 (377) 5451 まで。



Illustration / Yuji Hirayama



人物クローズアップ

# 池坊保子

衆議院議員  
(昭38国)



学習院大学文学部国文科在学中に、  
600年の歴史を持ち、130万の弟子を擁する  
華道の最大流派・池坊家元45世専永氏と結婚。  
旧華族としての気位とリベラルな精神で、  
たくましく、情熱的に生きてきた人。

Photographer/Takeo Hayashi





# 一線記者が見た政治家「池坊保子」の素顔

時事通信社・編集委員 田崎史郎

「私、質問づくりをするのが大好きなんです。質問づくりを始めると、この部屋が資料で埋まって部屋に入っていないだけ。日曜日に用がないとき、ベッドの上に資料をいっぱい広げて質問づくりしているのが大好きなの。そう、全部自分でつくるの。つくる過程が楽しいんです」

衆院議員、池坊保子は議員会館の部屋で少女のように目をきらきら輝かせながら言った。

質問を自分でつくるという、一般の人にとって当たり前のことが、国会では実は当たり前ではない。所属する政党の政務調査会の職員が原案を作成し、それに議員が手を入れて質問する。手慣れた議員になると、国会職員や各省庁の官僚に質問づくりを頼む。池坊の手づくりの質問は一年七カ月の間に、衆院本会議を含め二十回に及ぶ。

質問づくりにかぎらず、池坊には政治家が醸し出す匂いがない。政治家には自己顕示欲、権力欲が服を着て歩いている風がある。選挙で財産を懸け家族も犠牲にしてようやく闘い取った地位であり、権力を持たなければ自分の構想も実現できない以上、政治の本質がそういう人間性を生み出していると言える。だが、池坊の振る舞いにはその匂いがみえない。「小説家か弁護士、政治家になりたい」という夢を実現する機会が突然やってきた。平成八年（一九九六）九月二十三日、新進党党首だった小沢一郎（現自由

党党首）から京都の新都ホテルで総選挙出馬を要請された。つぎ、大阪一区で選挙準備を進めていた長女の婿、雅史の相談、と思つて会った池坊は、「お任せします」と返事して会話はほんの十分ほどで終わった。

月四日、党本部から立候補に必要な書類を至急そろえるよう連絡が入った。

新進党の比例代表区近畿ブロック名簿一位と知つたのは公示当日、雅史の出陣式のこと。そして、投票日の二十日、「代議士池坊保子」が誕生した。雨降るなかを早朝から街頭に立ち、雪の降る日も戸別訪問して手の平が痛くなるほどに何万人もの有権者と握手して、国会議員バッジを手にするという立身出世の物語はどこにもない。

政治家らしくないのは、本人の立ち居振る舞いや性格もある。学習院大学の同窓、農林水産大臣の島村宜伸が、

「日本の伝統芸術の家元の奥方だから、一般の女性が経験しない苦勞もなされたのだろう。それに家柄もいいとなれば、不愉快な人間性をつくりだしそうなんだけど、そういうところがまったくない。天真爛漫というか天衣無縫」と語るように池坊はつねに明るく屈託がない。作家・遠藤周作も、池坊に、「あなたは怖いもの知らず。人を疑わないから夜道でも平気で歩いていく」と語つたそうである。だが、池坊が、「私の育つた環境が、どんなことがあるても優雅に毅然と、そして、自分のプライベートルームは見せない方がいい、という家庭だった」と自己分析するところを見ると、無意識に自己抑制を働かせているのかもしれない。「らしくない政治家」も、昨年十二月の新進党党首選で政治の渦に巻き込まれた。当初、小沢の推薦人に名を連ねながら、告平直前に「私の名前のところに紙を貼ってください。私はまだ判を捺していませんから」と反旗を翻した。昨年春頃から、小沢の党運営に対する疑問を持ち始める。

「あの方は原理原則を大事になさるというけど、本当はご



上／1996年、新進党（当時）から衆議院議員に当選。翌年11月に開かれた議員総会に出席。右／京都の自宅で花を生ける。池坊学園長から政治家になり、京都には金曜日の夕方に帰り、月曜日の夜から火曜日の朝に東京へ戻るという生活。忙しい東京に比べると、京都がすぐに恋しくなるといふ。





## Yasuko Ikenobou

いけのぼう・やすこ／昭和17(1942)年、元子爵・梅溪通虎の三女として東京・松瀬に生まれる。学習院大学文学部在学中の昭和38年に、華道池坊45代目家元・専永と結婚。2年後に長女・由紀、さらに4年後に次女・美佳を出産。子育てが一段落する頃から夫の仕事を手伝い始め、財団法人池坊華道会常務理事として華展の企画運営などにあたるほか池坊文化学院院長、池坊学園理事長などを歴任。その傍ら執筆、評論、講演などで活躍。平成8年新進党から衆議院議員選挙に立候補、比例代表区近畿ブロックで1位当選。現在は東京・高輪の議員宿舎住まい。週末に京都の自宅へ帰って5歳のお孫さんの相手をするのが何よりの楽しみとか。



「私は仕事をしなくてはならない業を持つ女。テレビのメロドラマやウィンドウショッピングには喜びを見い出せない女」と語る保子さん。東京では次女で秘書を務める美佳さん(右)と議員宿舎住まい。母として、働く女性の先輩として生きた手本を示されている。



『たおやかに 華やかに』明窓出版1,300円(税別)／季節毎に美しく変わる京都を背景に折々の所感をつづった最新エッセイ集。娘として、母として、妻として、そして政治家として生きてきた半生が、簡明に表現されている。進取の気風に富み、挑戦する気持ちを忘れない著者の姿勢には、誰もが共感を覚えるはずである。

自分がなりたい大義名分をおつくりになるのが大変お上手な方だと思っただけです。あの方は、人からアドバイスをお受けになるのがお嫌いな方」と、小沢に手厳しい。「質問すると、共産党」と言われるくらい攻撃的。講演でもアジテーターなんです」と語る側面がちりちりとぞく。党首選で池坊が推した学習院大の同窓、鹿野道彦が小沢に敗れ、いったんは冷飯を覚悟する。しかし、小沢は新進党を自らの手で叩き割る愚拳を犯し、池坊は新進党に入って女性局長に抜擢される。もちろん、新進党も池坊に「利用価値」を見出しのことだ。

「時局講演会では全国からひっぱりだこ。人脈も豊かだし、党のイメージを池坊さんに代表してもらっている」(代表の神崎武法)

創価学会を母体とする新進平和の幅を広げる役割を、知らず知らずのうちに担っている。

母が皇太后さまのいとこという華族、大学を中退して華道最大流派家元との結婚など、あれこれと話題に事欠かない。世間から批判されたが故に人気沸騰、有名になったが故に「利用価値」も高まった。

「世間の尺度ではなく、自分の尺度で生きていくほかないと思っています。人間だれでも、人生に責任をもつのは結局、自分だけです。幸い、雑音はあまり気にならないし、回復も早い方です」

池坊は、比例代表選出の弱みで政党から捨てられればおしまいである反面、政党の変遷がこれだけ激しいと、いきなり党首に担がれ大化けしないうちもかぎらない。どちらに転んでも池坊は、さわやかに振る舞うだろう。「ご機嫌よう」と言って。(敬称略)



# 医学

中原英臣

Text by Hideomi Nakahara

なかはら・ひでおみ/1945年東京都生まれ。医学博士。山野美容芸術短期大学教授、早稲田大学講師。ニューヨーク科学アカデミー会員。慈恵会医科大学卒業後、77年より2年間アメリカでバイオ研究に従事する。佐川綾氏との共著で「DNAの陰謀」、「進化論が変わる」などがある。

## 環境ホルモンの出現は、 人類の未来を考える機会だ。

### 最

近、環境ホルモンという言葉が巷に流れている。環境ホルモンというのは、私たちの体の中にあるホルモン、とくに性ホルモンと非常によく似た作用を持っている化学物質のことである。

発ガン性のある猛毒物質のダイオキシンによる環境汚染が社会問題になっている。このダイオキシンは発ガン性があるだけでなく、環境ホルモンとしても恐ろしい化学物質である。ダイオキシンのほかにも、殺虫剤として大量に使われたDDT、プラスチックの原料であるビスフェノールA、船底の塗料として使用される有機スズ、カネミ油症を起こしたPCBなどが環境ホルモンといわれている。

すことが明らかにされている。現在の日本における最も重要な社会問題の一つは、子供の数が急速に減少していく、少子化と呼ばれる現象である。少子化傾向は厚生省の人口動態統計を見れば一目瞭然である。

一九九六年に生まれた子供は一二〇万六五五一人と、一八九九年に統計がとられはじめてから最低の数字を示している。一九七三年には、二〇九万人を超える子供が誕生したことを考えると、わずか二十年間に出生数が四〇パーセントも減少してしまったのである。

こうした少子化という現象について、多くの専門家からいろいろな意見が示されてきた。例えば、子供をたくさん産みたくても、住宅事情が許さない、という意見があるが、戦後のベビーブームの時の日本の住宅事情は、今日よりもっとひどかった。

こうした急速な少子化が進むなか、人間の男性の精子数が減少しているという驚くべき事実が明らかにされた。最初にこの事実に気づいたのは、デンマーク・コペンハーゲン大学のニールス・スカッケベックだった。

スカッケベックは、この五十年の間に、男性の精子の数が半分近くに減少してしまった、ということを一九九二年に発表した。こうした精子数の減少をもたらした犯人と考えられているのが、環境ホルモンである。

これまでは遺伝子という設計図

がすべての生命活動を支配していると考えられてきたが、環境ホルモンの登場によって、この考えに疑問が投げかけられた。

どんなにすばらしいビル設計図があっても、実際にビルを建てるには、設計図通りに工事を進める手順が大切になる。もしもビルを建てる工事の手順を間違えたら大変なことになる。

電話線や水道管を設置する前に壁を塗ってしまったら、電話も通じないし、風呂に入ることだってできない。いくらすばらしい設計図があっても、ビルを建てるという作業の手順がスムーズにいかないとビルは完成しない。このことからわかるように、作業の手順は設計図に負けないくらい重要である。

人間の体内でこうした手順を決めているのがホルモンである。環境ホルモンは工事の手順を狂わす化学物質ということになる。環境ホルモンは、胎児の成長を狂わせ生殖機能の成長に大きな影響を与える。

私たちが住んでいる地球が汚染されることによって、人類が生存できなくなってしまう可能性秘めている地球環境問題も大変なことだが、私たちが子孫を作れなくなってしまうかもしれない危険性を持った環境ホルモンによる汚染も、人類の未来にとって重大な脅威となる。

環境ホルモンによる汚染には、「量」「質」「スピード」という三つの問題がある。環境ホルモンは一定の量を超えると人体に影響を与えるために、環境中に放出される環境ホルモンの「量」が問題になる。

また、人工的に合成された化学

物質である環境ホルモンは、自然界に存在する天然の化学物質とは「質」がまったく違う。人類はこれまで一〇〇〇万種類を超える化学物質を合成し、八万種類の人工の化学物質を利用している。

さらに、環境ホルモンとなる化学物質が使用されはじめたのは、わずか数十年前のことだったことを考えると、便利な化学物質が短い間に急速に普及していく驚異的な「スピード」にも問題がある。

環境ホルモンによる精子数の減少や生殖機能の異常は、人類が便利と清潔を追求するために創り出した人工の化学物質が引き起こした文明病といえる。

そのことはDDTの使われ方についてみてみるとよくわかる。ドイツのミュラーによって発見されたDDTは、奇跡的な農薬として登場した。DDTは農薬としてだけでなく、赤痢やマラリアといった伝染病を媒介するカやハエなどの駆除にも使われ、多くの人命が救われた。

一九四〇年にマラリアを媒介するネッタイシマカの撲滅運動をスタートしたスリランカでは、人口一〇〇〇人当たりの年間死亡率が三四人から二人へと三分の一も減少してしまいった。このように医療でも人類の健康と伝染病の予防に貢献したDDTを発見したミュラーは、一九四八年にノーベル医学賞を受賞した。

こうしたDDT神話も、やがて崩壊することになる。一九六五年にミュラーがこの世を去った時には、すでにハヤブサ、ワシ、ペリカンといった野生動物が、DDTによって死にはじめていたのである。やがて母乳からも検出された

DDTは、その後の研究によって、環境ホルモンであることが明らかにされた。

二十世紀に発見された化学物質のなかで、最も高い評価を受けたDDTが、いまでは全面的に使用禁止になっている。このことは、私たちが科学技術の成果を無批判に受け入れてしまったことに対するツケだった。

DDTが開発された時、DDTの危険性には誰も気がつかなかった。そして、いまDDTが環境ホルモンであることが判明しても、現在の科学技術では、残念ながら何もできない。

環境ホルモンの出現は、私たちが地球と人類の未来について、もう一度、しっかり考える最後のチャンスを与えてくれているのかもしれない。



Illustration/Yuji Hirayama



# AIR MAIL

vol.3  
From Helsinki  
FINLAND

国際結婚をした卒業生から混迷する日本に送るメッセージ

日本の生活や常識をそのまま  
海外に持ち込む日本人は、無防備で非常識です。

フィンランド。森と湖の国。と聞いただけで、豊かな自然や静かな生活が思い浮かびます。世界は狭くなったとはいえ、遥か遠い国フィンランドの人々の暮らしにつ

たフィンランド人と結婚されたライティネン・朱実(旧姓・荻野朱実)さんに登場していただきます。ライティネンさんは結婚後1年でフィンランドのヘルシンキに渡



ライティネン・朱実さんの場合

(昭54短人)

ライティネン・あけみ/旧姓、荻野朱実。1958年東京生まれ。学習院女子短大文学科を卒業後、銀行、放送局に勤務。1985年フィンランド人と結婚。一男一女の母。10年の海外生活の後、2年前から家族と共に日本に滞在。

いては意外に知られていません。そこで今回は昭和54年に学習院女子短大を卒業して銀行、放送局に勤務した後、当時東大で博士号を取得するため日本に滞在してい

り、アジアの歴史・文化を研究するご主人と約10年に及ぶ海外生活を送りました。デンマークに2年半、中国に1年半、その間フィンランドには通算6年滞在し、2年

前から外交官として勤務するご主人と日本で暮らしています。

「日本に住むのは10年ぶりです。時々帰って来ていたので、それほどシヨックはありませんでしたが住んでみると何だかいつも時間が足りないんです。日本にいると何をしても時間が足りないと感じるのは不思議です」

同感です。本来便利な生活とはゆとりを生む生活のはずなのに、便利になるほどに忙しくなるのは勤勉で忙し好きの日本人の性分ゆえでしょうか。

独立心旺盛な学生たち。

フィンランドの首都ヘルシンキは人口約52万。小さな港のある静かな町。冬は12月から3月まで雪に覆われ、町中にクロスカントリースキーのコースができ、仕事帰りの人が照明付きのコースを散歩代わりに楽しみます。昼間は空気に水を含めば、たちまちスケートリンクができあがり、ホッケーやソ

リをする子供たちの格好の遊び場となります。

「のんびりしてましたよ。特に夏は1ヵ月間休暇をとって湖の岸辺のセカンドハウスで過ごすんです。何もしないでのんびりと。ガスも電気もないハウスで畑仕事をしたり釣りをしたりして……」

何もしない。これこそ最高に贅沢な休暇ではありませんか。命の洗濯をして、再び厳しい日常を続けていく英気が養われそうです。

フィンランドで3年半の間、子供を保育園に預けて大学生としてフィンランド語を学んだライティネンさん。日本の学生生活とはど



1993年12月、フィンランド・ロバニエミ近郊の動物園で。長男アキラ君、長女ミンナちゃん。

Illustration/Fumie Wada  
Text by Emiko Yoshida



# AIR MAIL

From Helsinki FINLAND



96年3月、ヘルシンキの友人宅での家族写真。左から朱実さん、ミンナちゃん、アキ君、ご主人のカウコさん。

う違うのでしょうか。

「フィンランドの学生は、経済的にも精神的にも自立していて驚きました。男も女も18歳になると家を出ます。学生結婚して、子供を保育園に預けながら勉強する夫婦も多いですね。学生は政府から奨学金をもらい、アルバイトで生活費を稼ぎながら勉強するのが普通です。銀行から教育ローンを借り、働いてから返す人もいますよ」

自分で働いたお金で勉強する。となれば、よほど明確な目的意識がなければ続かないのでは。「何のために勉強しているか、皆わかっていますね。それは大学に入

る前に社会経験を積んでいる人が多いからだと思います。高校卒業後、職業学校や専門学校へ行つて働いてから大学に来る人や、10カ月の兵役に行った後、目的があつて大学に来る人が多いようです」

本来大学とは、どうしても学びたいことがあつて、社会に出てからそれを役立てる目的を持つて行く所ははずです。

ところが日本の大学は、「レジャー大学」と批判する声もあるように、4年間を娯楽と人生の息抜きに費やす学生も少なくありません。そこには、小さい頃から始まる厳しい受験戦争と、社会に出たが最後、会社人間となつて働き続けなければならない、悲しい日本の社会構造があります。

「今の日本で子供に教育を受けさせたいとは思いません」

現在2人のお子さんは、東京のインターナショナルスクールに通わせています。

「というのは、幼稚園からお受験をして大学まで行つて、その後、何が目標になつていのか、誰も答えてくれないからです。当の子供でさえ、そこまでわかっていない。いい会社というけど、具体的なものが何もない。そんな人生を送るために生まれてきて勉強するなんて子供がかわいそうですよ」

近頃、特に金融業界で、外資系企業に転職する30代が増えていくことは、あるいは終身雇用制度が改善されていく、良い兆候のひとつかもしれません。最後にライティネンさんに、「今の日本人について」聞いてみました。

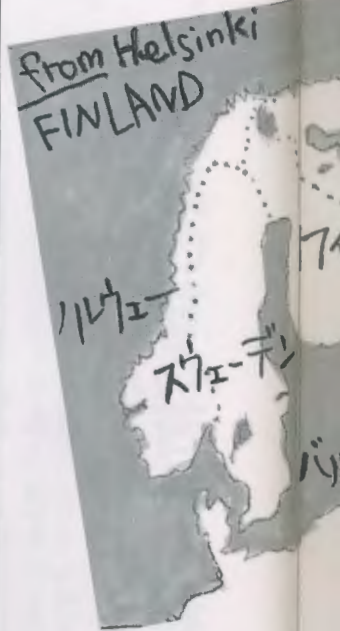
「日本人はたとえ旅行で行くにしても、どうしても日本の生活をその

フィンランドでもデンマークでも大学は最終目的ではなく、どういう仕事につくかが最終目的。小さい頃から、様々な職業を見たり経験したりして、将来を考える機会を撮影。

「日本では、大学を卒業して企業に入つてしまえば、もうその中でどうするかを考えていないと思うんです。たとえ途中でほかのことがしたくなつても、容易にはずれられない何かがありますよね」

「日本では、大学を卒業して企業に入つてしまえば、もうその中でどうするかを考えていないと思うんです。たとえ途中でほかのことがしたくなつても、容易にはずれられない何かがありますよね」

94年11月、ヘルシンキの自宅前でクリスマスカード用に2人の子供を撮影。



## 取材を終えて

今回も貴重なお話をうかがうことができました。いつものことなのですが、警戒心からなのか、日本に対し批判的なことをしゃべっていたのに時間がかりました。日本人は、とかく批判を非難と受け取りがちですが、自己への批判を冷静に、真摯に受け止める姿勢こそが国際人への第一歩かもしれません。



# スポーツ

佐々木明子 (平4文)

Text by Akiko Sasaki

さき・あきこ／平成4年学習院大学文学部英米文学科卒業。在学中はラクロスに熱中、日本代表にも選ばれた。現在テレビ東京のキャスターとして「スポーツTODAY」ほか、「丸山茂樹のゴルフの旋風」、「対決! MY BEST 10」などの番組を担当。

## スポーツキャスターも人間。 鳥肌が立つような経験もある。

スポーツキャスターとしての初仕事はサッカー番組だった。ちょうどJリーグが発足したあの熱狂的なブームの時だ。中継も担当したのでヴェルディやアントラーズなど人気チームの選手にインタビューすることもあった。当時は取材現場に女性がいるほうが珍しく、新聞記者の囲みにまじってわけもわからずコメントを拾い、グラウンドに通う日が続いた。

でも、石の上にも三年、とはよくいったもので、足繁く通ううちに存在を認めてくれ、「よく来てね」と声をかけてくれるようになった。カズ選手に「現場に来ない人のほうが多いのに偉いよね」と笑顔でいわれた時は、飛び上が

るほど嬉しかったことを覚えている。実は選手たちはよく見ているのだ。あの長嶋監督もあんなに記者に囲まれていながら、誰が来ているかはしつかりチェックして、

「佐々木さんは昨日ブルーのシャツを着てたね。知ってますよ」ですって。逆に「久しぶりだね」と突っ込まれることもある。

だからこそ自分でも、できるだけ実際に取材して見て聞いたことをコメントしたいと常に思っているのだ。ちょうど5年前のW杯アジア最終予選の時は、今と同様大変な盛り上がりで、成田出発を取材に行ったら私は、TVカメラに頭をぶつけられるわ、足は踏まれるわ……。女子高生の黄色い声を背に、少しだけ、ワイドショーのレポーターになったような気がして

複雑な心境になってしまった。あの時、選手たちは過熱報道に半ば疲れ気味で、緊張感も重なってストレスがたまっている様子だった。私は不調の時にマイクを向けたら、大一番に集中しなくてはならないスター選手たちにカメラを向けるのは、正直あまり好きでなく、仕事とはいえ「ほつ」といってあげればいいのに……と感じてしまうことがある。あの出発の日も、もうインタビューを取るのをあきらめていたと、つぶされている私を見つけたラモス選手が近づいてきてくれた。

「大変だねー。とにかく日の丸に誇りを持って死ぬ気で頑張ってください……」

最初はラモス選手は私のことは相手にもししてくれなかった。プロ意識を持った人だから、わけのわからない質問をする私に腹が立つたに違いない。もつと勉強してこい、と鼻であしらわれたこともある。でも、努力は人一倍認めてくれる方で、一度壁を越えればとても温かい。あの日もわざわざカメラの前に来てくれたのだ。ありがたいことである。そして、結果的に世界のサッカーは日本に試験を与えた。4年間頑張るようにと。

スポーツキャスターとしての私は、ここ数年間、自由な時間はほとんどなかったように思う。友人の結婚式の日にサッカー場を駆けずりまわり、皆が旅行を楽しんでいる時に、野球場のタバコの煙で



Illustration by Yuji Hirayama

白く濁った記者席でスコアをつけていた。失ったものは多いけれど、でもその倍以上の宝物を手にすることができたと思っている。

実は私、皆さまがお読みのこの文をフランスに取材に行く前に書いています。原稿が印刷所に入る頃には、きつとたくさん鳥肌を立てているに違いない。4年前はTV観戦だったけど、今回は自分の目で見られるのだ。

鳥肌といえば、日本代表国内最後の試合、キリンカップで、キャプテンの井原選手は、「グラウン

ドに入場した時は、あの観衆の大声援にもすごく感動した」と話していた。「鳥肌立つくらい？」と私が尋ねると、「もう体中ブツブツだよ、快感だよ快感」と笑顔を見せた。

なんだ、選手も同じなんだ。あの競技場では、サポーターも、選手も、みんな一斉にブツブツ鳥肌立ててるんだ。もちろん私も、冷静に、客観的に思ったって、あの瞬間、アナウンサーではなく、

自

分の体こんなにも毛穴があつたのかとびっくりするほど鳥肌が立つ瞬間がある。別に寒いからではない。心臓の奥の方からググッと湧き上がってくる不思議な圧迫感。俗にいう「感動」という感情である。サッカー日本代表のW杯出場が決まった次の日、渋谷のセンター街を歩いていたら、鼻に3、5個のピアスをした金髪の男の子たちが「昨日は鳥肌もんだったな、次の試合絶対行こうぜい」と盛り上がりつつ、その見かけと話の内容のギャップに思わず笑ってしまった。そうそう、真夜中に渋谷に座り込むより、競技場で声を震わして応援するほうがよっぽど健全な姿である。





第1回の催しは「島村宜伸農林水産大臣を囲む懇親会」

# このたび、新設された 櫻友クラブ 運営委員会 にご注目ください。

取材・文／吉江隆信

赤坂プリンスホテル旧館1階に開設された  
クラブラウンジと会議室からなるクラブ会員の交流拠点  
「櫻友クラブ」の運営委員会がこのたび設立されました。  
運営委員会では、由緒あるこのクラブ施設を舞台に  
様々な催しを開催する予定です。ご期待ください。



## 設立の目的と 委員会のプロフィール。

櫻友クラブ運営委員会は、桜友  
会理事会の承認を経て選任された  
運営委員によって構成され、クラ  
ブ施設となった赤坂プリンスホテ  
ル旧館1階の「櫻友クラブ」の積  
極的活用などを目的に設立された  
ものです。

運営委員会の構成メンバーは、  
委員長／田中雄平（昭和20高）桜友  
会副会長、副委員長／犬養康彦（昭  
27政）桜友会副会長、中條高德（昭  
27政）、委員／香取純一（昭50政）  
桜友会事務局長、田中鐵男（昭31

政、村上智也（昭31政、上田洋子  
（昭32短）、池田浩規（昭33政）、桑  
原啓子（昭33政）、矢野坦（昭34仏）、  
松下武義（昭35政）、大石智一（昭55  
経）の各氏。

去る5月19日には、運営委員会  
設立後第1回の催しとして、「櫻  
友クラブ」クラブラウンジにおい  
て「島村宜伸農林水産大臣を囲む  
懇親会」が開催されました。

当日は、桜友会初の女性国会議  
員である池坊保子衆議院議員ほか、  
クラブ会員約40名が参会し、なご  
やかな雰囲気の中で、同窓の絆を  
再確認し、親睦の輪を広げる有意  
義な会となりました。

よしえ・たかのぶ／1950年群馬県生まれ。昭  
和50年学習院大学文学部フランス文学科卒業。  
76弘済出版社入社。月刊旅行雑誌「旅の手  
帖」編集長を経て、現在、月刊首都圏情報誌  
「散歩の達人」編集長。



Photographer/Takeo Hayashi  
Text by Takanobu Yoshie



# 日本および日本人論を聞く。

## 家庭教育、集団教育の重要性をもう一度。

若葉が鮮やかな気持ちのよい季節、平成10年5月19日午後6時より、村上智也櫻友クラブ委員長の一声で講演会は幕を開けました。

島村大臣の到着に先立ち、国際的に活躍するピアニスト徳江陽子さんが紹介され、ピアノ演奏を披露。華麗なショパンの調べが趣ある赤坂プリンスホテル旧館の一室に響きわたりました。引き続きスポーツ番組を担当するテレビ東京キャスター・佐々木明子さんによる飛び入りスピーチなどがあり、会場の空気が一層なごんだところで、メインゲストである島村大臣の登場となりました。

農林水産大臣という要職に就かれ、精力的に政治活動を行っておられる大臣は、リラックスした話しぶりながら、辛口タッチで、行く先不透明な平成の日本精神文化論を展開されました。

今日の状況から振り返って、戦前の日本には、国家にも個人にも困難を克服する団結心があつたと、さらには、国民一人ひとりに社会を構成する一個人としての自覚や、事にあたって何をなすべきかという個々の役割が身についていたことをまず指摘し、今日の日本および日本人が直面している精神の危機について、家庭教育や社会教育の重要性を中心に論じられました。その中で、戦前の大家族制度による家庭教育や地域社会で

の社会教育といった集団教育の場が、戦後、特に高度経済成長時代を通じて、核家族化、地域社会の崩壊という現象を生んだ結果、急速に減少していったことが問題であり、早急に対策を講ずるべきときが来ているという考えを強調されました。

また、最近の少子化傾向にもふれ、平成9年度のデータによれば、女性1人当たりの出産率が1.43人で、100年後の日本の人口は現在の半分を切ってしまうことが現実視されていることを指摘し、今日、国民はもう一度、国家や社会を支える家族について、責任と義務を伴う個人のあり方について見直すべきであると訴え、30分ほどの講演を終えました。

島村大臣の講演に聞き入る参会者。時折まじえるユーモラスな話しぶりに、大臣の気さくなお人柄がうかがえました。



島村宜伸さん

しまむら・よしのぶ/1934年東京・江戸川区生まれ。昭和31年学習院大学政治学科卒業。日本石油勤務の後、中曽根康弘氏秘書を経て76年衆議院議員初当選。95年文部大臣として初入閣。97年より農林水産大臣。当選7回(東京16区)。



### OGピアニストの演奏も

①徳江陽子さんによるピアノ演奏が講演会に花を添えました。演目はショパンの幻想即興曲4番とノクターン。懇親会でも演奏を披露。

### OGキャスターが飛び入り

②テレビ東京の佐々木明子さんの飛び入りスピーチは長野オリンピックでのエピソード。ジャンプ競技での取材裏話をお話いただきました。

### お出迎えの櫻友クラブ委員長

③村上智也櫻友クラブ委員長の一声で講演会がスタート。リラックスした雰囲気づくりに、委員長自ら大活躍されました。



懇親会・あふれる笑顔の参会者

# なごやかに同窓の話の輪が。

島村宜伸農林水産大臣による講演後、会場は約40名の参会者が、

なごやかに歓談する懇親の場となりました。飲み物のグラスを片手に、大臣のスピーチ内容について改めて語りあったり、旧交を温めたり、近況報告などをしあう光景がクラブラウンジのあちこちで見られ、やや張りつめた講演会の雰

囲気から一転、同窓会らしい華やいた空気が流れはじめました。

「囲む会」の主役である島村大臣もすっかりくつろがれ、ざつとばらんなお人柄そのもので、学習院時代の野球部での話をはじめ、学生生活の思い出話をユーモアたっぷりに披露されました。大臣の話しぶりは、国政の重責を担う人物

がまぎれもなく学習院の同窓生であることを実感させ、こうした懇親の場の意義を参会者一同で確認しあう一夜となりました。

飲み物が進むにつれて、会はずらに盛り上がり、島村大臣を囲む記念撮影などをするうちに、名残を惜しみながらのお開きとなりました。

笑顔があふれる会場は、同窓の絆を改めて実感する場所。卒業年次が違っても、巣立ったところは同じ学習院。学生時代の思い出話が飲み物の力も手伝って、会場のあちこちで花を咲かせていました。昔を懐かしみ、今を確認しあう同窓の集いを、これからも大切にしていきたいと、問わず語りにうなずきあった一夜でした。

①学習院同窓会らしくエレガントな装いで。②校友会初の女性国會議員として活躍されている池坊保子さんも。③ピアノ演奏を披露された徳江陽子さんと記念の1枚。④この日の主役の島村大臣を囲んで。⑤同窓生との一夜の思い出に。⑥田中鑑男氏(右)の姿も。⑦矢野坦氏の顔も。⑧若き日の話に花が咲く。⑨同じ学習院で育った人間が集う場がここにある。⑩カルティエエジヤパンの吾妻綾子さん。

## INF.

「櫻友クラブ」で会いましょう。

赤坂プリンスホテル旧館1階の「櫻友クラブ」ラウンジ(約40名)および会議室(約15名)は櫻友クラブ会員なら誰でも利用できる施設です。今回開催された第1回懇親会に引き続き第2回は6月16日に島津久厚学習院院長を迎え、同様の会を催しました。以後運営委員会では様々な会を企画していく予定ですが、催しについてのご提案も大歓迎です。お問い合わせは、校友会事務局☎03(3988)3288へ。





学習院女子大学

特集

# 海外帰国子女は 日本を 変えられるか？

国際文化交流学部を擁し、この春スタートした学習院女子大学にみる国際化時代の教育の果たす役割

この春、新しい歴史をスタートさせた  
学習院女子大学。国際化時代に  
適応できる大学ならではの学生による  
閉塞感に覆われた日本お助け企画。

## 図書館は完璧な管理と保管

学習院女子大学のキャンパスは、学習院女子短期大学のキャンパスを受け継ぎ、充実した施設を有しています。なかでも特筆すべきは、昭和57年に新築され、日本図書館協会建築賞を受賞した図書館です。自然光が溢れる快適な空間は、学習にもっとも集中できる場所のひとつだと

言えるでしょう。

蔵書数は14万5000冊。専門書はもちろん、講義で使用する図書や教養書、ベストセラーの所蔵が充実しています。資料の検索には、カード目録のほかコンピュータを導入しました（OPAC）。これで女子大学、学習院大学の蔵書や国内外の文献を探し出すことができます。

このページの他の写真は、図書館内部。雑誌の種類も多く、約1200種類を所蔵。資料はパソコン検索と完璧に整理されたカード目録で。図書館司書課程を設ける女子大学だけに、図書の管理は見事の一言。

上／学習院の歴史を物語る鉄門に、「学習院女子大学」の新しい文字が。中／女子大学のキャンパスは女子短大から受け継いだもの。今、ここには短大生と女子大学の1年生が。下／互教会館内の広い学生食堂。







“出る杭は打たれる”日本。  
能力を伸ばし、個性を尊重する  
海外で生活した帰国子女たちに  
一石を投じてもらうべく、  
ここに、辛辣な意見を  
述べてもらいます。

座談会／帰国子女のみた世界と日本

## “みんなが同じ”社会に、オブリジェクション！

●座談会の出席者（国際コミュニケーション学科1年）

鴨下玲子さん

勝田智世さん

井川光恵さん

小倉洋子さん

●司会 前田佳子さん（平5政）

### 受験に追われる 高校生活に疑問を。

司会 今日は4人の方に集まっていただきました。みなさん、それぞれ違う国にいらしていて、いろいろなお話がうかがえそうですね。それぞれ、どんな理由で、どちらの国に行かれたのですか。

小倉 私は日本の高校に入学し、2年生の夏休みにアメリカ、メイン州の現地に編入しました。私が日本で行った高校は、私の理解を超えるような規則がたくさんあったんです。それに、テストに向けた勉強ばかりする高校でした。そんなふうな形で高校を卒業して、OLになって、普通に結婚するのは嫌だな、と思ったんです。

鴨下 今知ったのですが、実は私も小倉さんと同じ高校、同じ学年でした。大きな学校だったので、当時は知らなかったんですけど。

私は中学3年のときにオーストラリア、シドニーに短期留学したんです。そのときに、好きな科目を中心に勉強できるオーストラリアのシステムが気に入って、高校2年の秋からメルボルンの現地に編入することにしました。

司会 お2人は、自分から率先して留学されたんですね。井川さんと勝田さんは、お父さまの仕事の関係からですね。

井川 私は父の仕事の関係で香港で生まれ、その後日本で暮らして、また中学生のときに香港に移りました。そこで、両親が兄と私をスイス、ジュネーブのインターナショナル・スクールに入れることに決めたんです。

勝田 私の場合は、父がアルゼンチンに海外赴任したためです。両親は、日本に残りたいなら残ってもいいと言ってくれたのですが、私自身も行きたいと思いました。

高校は勉強、勉強と言うだけで、気がつけば私もテストのことしか頭になかったんですね。そんな人生を変えてみたいという気持ちがあったんです。

司会 井川さんは、香港やスイスに行くのはお嫌だったんですか。

井川 引っ越しするたびに嫌な思いをしました。友達ができるたびに別れなければいけませんでした。でも、父は昔は7カ国語話せた人で、私自身も英語が話せるようになりたいという気持ちはありましたね。で、行ってみると、とても楽しかった。

### 社会や企業が変われば 学歴社会も変わる！

司会 こうやってうかがってみると、日本の高校教育には大きな問題があるようですね。このような教育制度に納得できない方はほかにもいらっしゃると思います。み



今も上品に佇む赤煉瓦の校舎。





鴨下玲子さん

昭和53年生まれ。高2の秋、オーストラリア、私立Billanook Collegeに編入。帰国前には、現地の大学にも合格。



勝田智世さん

昭和52年生まれ。高校2年終了後、アルゼンチン、Asociacion Escuelas Lincolnに編入。2年2ヵ月滞在。

なさんはこのような教育制度の原因は、何だと思われますか。  
小倉 親と社会じゃないですか。親が古い考えを持っていて、高学歴なら収入もよくなつて、いい人生を送れると思ってるんですよ。鴨下 社会だよ。全員 そう、社会システムだね。鴨下 私はオーストラリアで、楽しいことをいっぱいしたし、同時に勉強もかなりしました。でも、日本では、勉強と楽しむということと同時にできないんですよ。勝田 結局、いい大学に行くということは、いい企業に入るためですよ。企業が変わらなければ、何も変わらないと思いますよ。小倉 政治が変わらなければ、企業も変わらないんじゃないですか。全員 そうかもしれないね。司会 皆さんが、今の日本の教育の原因が社会や企業にあると考えるようになったのは、やはり海外で教育を受けてからですか。小倉 小さいときから塾に行かされ、受験勉強を意識させられてきましたけど、社会の構造にハッキリ

り気づいたのはアメリカのシステムを見てからです。『これこそが普通じゃないか』って。鴨下 実は、私たちの高校は、辞めて海外留学をすると言つと、執拗に止められるんです。半年前に辞めると言つて、先生たちに説得され、結局留学を断念した生徒がいるという話を聞いて、私は1ヵ月前に言いました。先生たちはものすごく怒ってましたけど。小倉 私は2ヵ月前に辞めると言つたんです。そしたら母親同伴で個室に呼ばれて、「大学から留学すればいいじゃないか」などとしてこく止められました。司会 どうしてそんなに執拗に説得するんですか。鴨下 中途退学して留学する生徒が多ければ、それだけ学校に問題があるからじゃないかと評価されるらしいんです。結局、先生たちは、個々の生徒の夢や将来ではなくて、世間体だけを気にしているんですよ。だから、日本と外国の大きな違いは、学歴社会が実力社会か、ですよ。海外では、世間

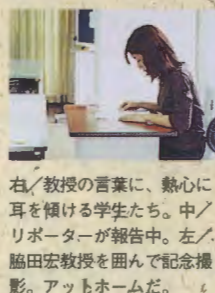
体は気にしない。学校の名前より、本人がどれだけやったかが評価されるんです。勝田 アルゼンチンも同じです。実力主義ですね。教える側の一方通行は授業として機能しない。司会 では、実際の教育の現場はどうだったんでしょう。現在の学習院女子大学での授業の印象も交え、海外の授業や先生のことを、もう少し話していただけますか。鴨下 日本の授業は受け身ですよ。オーストラリアでは、生徒が「つまらない」と言つと、先生は授業をどう変えるべきか考えるんです。あれには感動しました。司会 一人ひとりの能力を開発していくような授業が考えられているんでしょうね。鴨下 そう思います。たとえば、オーストラリアでは幼稚園でさえコンピューターを使える環境にあるんです。だから、大きくなってコンピューターに抵抗のある人は少ない。日本では、オジさんに

## カリキュラム 拝見

学習院女子大学

多岐にわたる知識を育む。

ひとつの事象に対する認識は、育った国や環境で異なります。女子大学は、異国の文化と日本の文化の両方を同時に学べます。



右／教授の言葉に、熱心に耳を傾ける学生たち。中／リポーターが報告中。左／脇田宏教授を囲んで記念撮影。アットホームだ。



国際文化交流学部は2つの学科で構成されています。そのひとつが国際コミュニケーション学科。この学科の目的は国際関係、国際機構、地域文化などについて学びながら、国際コミュニケーション能力を高めることです。そのためは、政治や法律から社会・人文科学系まで、国際関係に基づいて総合的に学ばなければなりません。今回拝見したのは、脇田宏教授による「国際コミュニケーション基礎演習ⅠG」です。副題は「地球環境問題の認識」。この日の授業は事前に決められたテーマに関し、特定の学生が資料を作成し、司会を立てて発表する形をとって進められました。発表が終わると質疑応答に移るのですが、みなさん、わりと控えめ。脇田先生は、質問がなければ司会者が質問を考えること、リポーターの話の適度な速度、出席者が司会者を助けることと指摘していきます。また、リポートで取り上げた事象が、人間生活にどう影響するのかを考えさせます。こうして、学生は国際コミュニケーションに必要な事項を身につけていきます。





司会 前田佳子さん

平成5年、三菱地所住宅販売株式会社。宅地建物取引主任者。本誌には編集ボランティアで参加。今回、司会を担当。



井川光恵さん

昭和52年生まれ。中学生のとき、香港滞在を経て、約80カ国籍の生徒が在籍するスイス、Collège du Lémanに編入。



小倉洋子さん

昭和54年生まれ。高2の秋、アメリカ、Fryeburg Academyに編入。犯罪防止のセキュリティに日米の違いを痛感。

なつてからコンピューター教室に通つてるじゃないですか。それでは遅すぎますよね。  
井川 手が動かないよ(笑)。全員 そうだよ(笑)。井川 日本の教師は自分たちを偉いと思つていますよね。授業料は私たちが払つてゐるのに。海外では先生も生徒も対等なんです。鴨下 距離が近いよね。親に恋愛のことを言えなくても、先生には相談している子もいました。小倉 向こうの授業で好きだったのは、少人数制でのディスカッションが多かつたことですね。このクラスで先生を身近に感じるようにもなりました。

勝田 日本では、先生は「自分は教えているんだ」という上から見下ろすような立場ですよ。でも海外では対等で、先生が間違えたときは「間違えてる」とさへ言えるんです。もちろん、友達ではありませんが、尊敬する気持ちはあるんですよ。海外の教育のあり方を知ると、日本の学校に対して授業料を払つてゐるのは私たちにの、という気持ちは理解できますね。  
鴨下 海外では、先生も生徒もみんな楽しんでゐますね。楽しさを演出するのも上手。ファンシーデーという学年最後の日に、先生たちが生徒にプレゼントをくれたんです。それが、アイスクリーム売りの車を校内に呼んで、「おごりだ、おごりだ」つて。全員 すごい！井川 日本の先生は、生徒と関係を持ちたがらないと思ふんです。海外では、かまいたいし、かまつてほしいんですよ。

鴨下 日本では、勉強しろと後ろからプッシュされるじゃないですか。海外では、自分がやらないとそれは君の決断だからと言われる。小倉 今の授業は、強制ですよ。課題をして、発表して終わり。何の意味があるのかと思う。(学習院女子大学は)今年創立した大学ですよ。だから、ありきたりの大学じゃない、とても期待して入学したんです。でも、正直に言つて失望するところもある。



勝田 私、国際コミュニケーション学科自体に惹かれて入学したんですけど、満足しているとは言えないですね。全員 そうだね……。井川 意見を言つて、(大学側が)聞き入れてくれればいいけど……。鴨下 授業は先生が一方的に進めているのが多い。機能しているのは少ないですよ。先生と仲よくし

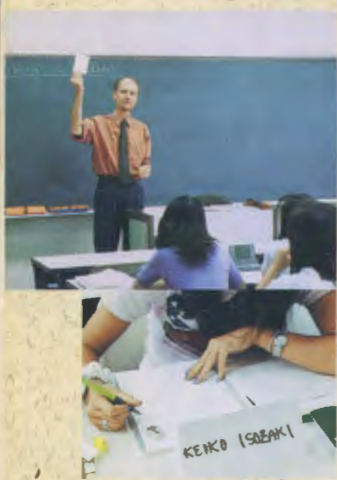
## 留学時に役立つ生きた英語を学ぶ。

国際文化交流学部必修科目のひとつが、留学する場合に、直接生きてくる外国語科目です。拝見したのは、B・ミッシェル講師の「オーラルコミュニケーションI」です。まず、驚いたのは、教室の外まで聞こえてくる学生たちの大きな声です。英語の知識を躍動的に使えるよう、リラックした雰囲気を作り出すのがミッシェル講師の考え方。席を立ててペアワークをする学生たちは、会話を集中し、まさにミッシェル講師の意図どおり学習を進めているわけです。



留学生インタビュー  
イネツサ・マツタさん(国際コミュニケーション学科1年)

私は、子供のころから日本に興味を持っていました。両親も東洋学を学び、その影響が大きかつたんでしょうね。私も東洋学を学び、母国ロシアでは、大学院の国際関係学部在籍で院生です。来日したのは、特に日ロ関係に興味があつたから。それに、日本人の日常生活や心理を理解したかつたからです。日本人とつきあつて感じるの、礼儀正しさと丁寧さです。これらは歴史と深い関わりがあると思います。でも、若者は変わりましたね。それはいいことだと思います。現代女性は男性と対等に働くことを望んでゐると思いますからね。ロシア人が日本人に対して持つている印象は、口数が少なく、内気な人たち、というものです。でも、実際は、友達になるといういろいろなことが話せる、意見を交換することもできます。ロシアでは日本人は勤勉のシンボルです。来日して経済力や技術力を目の当たりにすると、それも実感できました。



上「オーラル コミュニケーションI」のミッシェル先生は、いろいろなアイデアで学生の発言を促す。下/机にはそれぞれの学生の名前が。欧米スタイルの即席ネームカードだ。





上/昼休みのキャンパスの中庭。友達と、会話をを楽しむ様子は、開放感にあふれている。下/図書館の約1500本のビデオは、映画に限らず多岐にわたる。授業の資料にもなる。

井川 私編入したとき、みんな集まってきたくれたんです。でも、逆の立場なら、私はできなかったと思うんです。今ならできますね。オープンになったんだと思います。鴨下 私の場合は誰も声をかけてくれませんでした。3ヵ月ぐらい過ぎたところ、「ここでは自分から入っていくかなきゃダメなんだ」と気づいてから、友達を作ることができるようになりましたね。

井川 それぞれが、異なった経験をしてお友達の関係で、印象に残っているのはどんなことですか。

鴨下 個性がある、流行がない、ということですね。向こうで、友達と日本の雑誌を見ていたら、みんな同じ格好していて、彼女たちに「宗教みたいで気持ち悪い」と言われたのはショックでした。

小倉 帰国したとき、「原始人がいっぱいいる」とビ

たいと思っても、授業が終わると先生はすぐに帰っちゃうから、仲よくならないし。

小倉 仲よくなっても、「おまえは勉強してない」と、すぐにそんな話題になってしまう(笑)。

**誰も助けてくれない、だから自分でやる。**

司会 日本の授業や先生に対して、思うところがかなりおありのようですね。同時に、海外の生活を存分に楽しめたんでしょうね。ご自分の中での変化はありましたか。

小倉 やりたいことはすべてできました。考え方も変わりましたね。鴨下 日本では、みんなが持っている私のイメージがあっただけ、現地では周囲の目を気にせずに何

でもできました。留学前の自分は誰かが乗り移っていたような感じがするほど、変わりましたね。

勝田 私も行ってきたかと思っ

井川 私が編入したとき、みんな集まってきたくれたんです。でも、逆の立場なら、私はできなかったと思うんです。今ならできますね。オープンになったんだと思います。鴨下 私の場合は誰も声をかけてくれませんでした。3ヵ月ぐらい過ぎたところ、「ここでは自分から入っていくかなきゃダメなんだ」と気づいてから、友達を作ることができるようになりましたね。

井川 それぞれが、異なった経験をしてお友達の関係で、印象に残っているのはどんなことですか。

鴨下 個性がある、流行がない、ということですね。向こうで、友達と日本の雑誌を見ていたら、みんな同じ格好していて、彼女たちに「宗教みたいで気持ち悪い」と言われたのはショックでした。

小倉 帰国したとき、「原始人がいっぱいいる」とビ

ックリしたんです。高校生が頭に花をつけてたじゃないですか(笑)。

鴨下 日本の高校生ってブランドが好きでしょ。どうして?

井川 流行だからじゃない?

全員 そうそう(笑)。

勝田 アルゼンチンもそうなんですけど、一人ひとりが独立した格好してるんですね。それぞれが責任を持って行動してるし。

**経験をムダにせず、いろいろ吸収したい。**

司会 授業の様子や、お友達の話をつかかって、自分を表現することが許される社会だということがよくわかりますね。では最後に、ひと言ずつ聞かせてください。

井川 私は帰国するのが楽しかったです。でも、今はまた海外に行きたいと思っています。海外で暮らしてから、親との会話も増えました。これからは、できれば言葉をたくさん学んで、親の仕事も手伝いたいと思います。

鴨下 私は今は、日本人のほかの友達よりも、精神的に強いと思います。実際、友達にも強くなったと言われますし。

全員 そう、言われるね。

鴨下 留学して、「誰も助けてくれない。自分がやらなければ、何

## 自ら研究し、日本文化を学ぶ。



「日本文化基礎演習IG」の授業風景。学生の研究結果に対する説明。

国際文化交流学部における日本文化学科は、日本文化の伝統と特質についての説明能力を高めること、正確な発信能力を培うことを目的としています。

今回拝見したのは、尼ヶ崎彬教授の「日本文化基礎演習IG」の授業で、副題は「日本学入門(1)」でした。ルース・ベネディクトの

「菊と刀」を題材に、ひとりの学生が研究発表し、他の学生が質疑します。発表者は著者になり代わって答え、他の学生は異なった視点で検討します。こうして、日本文化の特徴として指摘されてきたことを学んでいきます。

## インターネットで世界の情報収集。



コンピューター実習室。利用時間が近づくと学生の列ができるほど人気。

女子大学の誇るべきもうひとつの設備はコンピューター・ネットワークです。コンピューター実習室や学生閲覧室などに設置されたパソコンやワークステーションはネットワークで結ばれ、インターネットにも接続されています。国際文化交流学部には、世界中の人たちと情報交換ができるのです。コンピューター実習室が開放される時間帯は、多くの学生でにぎわっています。

## OGからのアドバイス

今里佳代子さん(平6史)  
三菱商事(株) 船舶・鉄鋼部



古本彰子さん(平6法)  
三菱電機(株) ビル海外一部







サンディエゴ補習授業校。校舎移転記念。



インディアナ補習授業校。

デトロイト補習授業校。



ヤンゴン補習授業校。

帰国子女が生きていける日本とは

## 特性を失くす子女たち

岩佐三郎

(財)海外子女教育振興財団 総務部 インフォメーション・サービス課長

海外生活を経験した子女は、日本で育った子供たちとは違うものを見えます。そこで培われるのが、個々の違いを認める、という価値判断力。ある意味でおおらかさです。ところが、帰国すると、ほとんどの子女がこの長所を失いがちです。それには、いくつかの理由が挙げられます。

ひとつは親の問題です。大学は本来、何を学びたいかによって決められるべきもの。しかし親は、その大学に行くのが損か得か、大学名というブランドの損得、就職に有利かの損得、帰国子女選抜試験があるかどうかの損得を考えがちです。そのとき、海外で独立心を養ってきたはずの子供たちも、帰国すると、親子間の力関係が逆転し、親の意向を無視できず、従うケースが増えていくようです。

日本では、ひとりの子供の能力を伸

ばそうとすると、他の子がひがみ、足を引く張ることがあります。みんなが同じでなければならぬ。逆に、海外勤務エリートという自負がある親は、自分の子供が落ちこぼれるのは耐えられない。落ちこぼれた子供を救う術を知らないのです。これは、もうひとつの親の問題、不安症候群です。

実は、親の海外赴任の陰で、苦労しているのは子供たちです。赴任時も帰国時も、子供たちは転校したくない。年齢が高いほど独立心が強く、自己主張もできます。しかし、親の求めのなかで、子供はベストを尽くしているのです。

私が子女に求めているのは、帰国後は率先して、与えられた能力を伸ばすこと。人生に棒さすことは辛いことかもしれない。でも、自分にとってプラスなら、すべきことだと思えます。

も実現しない」と考えるようになりまし。この気持ちで、いろんなことをしたいと思います。親にはきつくなりすぎないように気をつけると言われますけど。

小倉 昔は音楽が好きで、プロデュサーになりたいと思いました。今は、外国人に触れ、英語を話すことが好きなので、国際関係の仕事をしたいですね。

勝田 以前は幼稚園の先生になリたかったんですが、もつといういろな世界も見たいと思っています。

いずれにしても主婦は嫌です。海外での生活を無駄にせず、自分のやりたいことを見つけたいですね。全員 そうだね。

鴨下 このままだと日本の習慣や考え方に、また馴染みそうで怖い。全員 そうそう！

鴨下 帰国子女会、作ろうか(笑)。司会 本日は、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。みなさんのような方が、これからの日本を改善してくださることを期待しております。

### 座談会を終えて

座談会に先がけて回答いただいたアンケートで、3人が接客業のアルバイトを経験していました。お話を聞いてみて興味深かったのは、3人ともそこで言葉遣いや礼儀を学んだことです。日本での敬語や礼儀作法には、やはり苦手意識を自覚しているようですが、これからは彼女たちらしい言葉で、どんどん直言してほしいと思います。(前田)

私がシンガポールで過ごしたのは4〜9歳です。海外ではそれぞれの個性や性格が尊重されるので、たとえば定時に退社することでも当たり前のことでしょ。うね。日本では上司が残っている限りは部下も残らなければ、という感覚があります。ただ、今はそれも転換期に来ていると思います。結婚しながら働く女性が増えているのは、男性の意識も変わってきているから。私は、彼らが自分から変わってきていると信じていますね。

金融業界では髪型や爪の長さまで注意されると聞きますが、個を認めていないからですよ。でも、少なくとも私たちと同時代の人は変わってきたと思います。まわりでも、自分を殺している人はみません。幸いにも私の部署は自己管理が任せられ、アウトプットができればかまわない、という考え方です。海外生活の経験者が多いので、そういう人たちは個性を尊重する社会人というのを、身をもって学んだ人が多いのだと思います。



## 変

化は望んでも拒んでも、確実に訪れる。ただ、その変化が自分にとって、あるいは人類全体にとって好ましいものかどうかはまた別な話だ。

ごく近い例だが、ファッションなどはこの「変化のスーパーマーケット」のようなもので、年に二回は黙っていてもちゃんと訪れてくるし、また力づくでもこの周期を保守したいものらしい。

だから、「変化大好き人間」を自称し、新しい事象に出会ったら、どうにもじっとしてられないという性分の方は、この年に二回の最新流行のファッションで身を包めば、人心地がつくはずで、とりあえず「今日」という時代を体現した気にはなれるから、一度お試しいただきたい。

しかし、これも程度の問題で、個人で楽しむならいざ知らず、必要以上の大声で、「現代人の必須な条件は時代の変化に敏感であること」などと真顔で言われると、どこかに「現代」はおろか、「昨日」のことを言われているような気にもなる。その訳は、この意見の裏側になりの無理とズレの危うさを感じるからなのだろう。多分、そこには、時代の変化を体で楽しめない、生真面目な不器用さの硬さがあるからに違いない。

本当のところ、「時代の変化」などは意識の下で受け

大人のおしゃれに洗練を加えるために  
雪三郎イズム

vol.3

## 流行の方法論

絵と文 渡辺雪三郎 (ファッションデザイナー)

### 流行を楽しむ

さて、流行が好きでも嫌いでも、気がつくところからか生まれてしまうのは致し方ないこと。なれば、この生まれてしまった流行を、いかに味方とし、いかに楽しむかを考えてみたいと思う。

本来、理想とされるのは、自然に身体が流行に馴染んでしまうような幼児体質ならば、もつともよい。しかし、やや人生に厚みを増せば、人間そうそう軽やかに、言い換えれば、無責任に生きてゆけるわけもなく、どこかで自分の枠を持ってしまうのは、仕方のないこと。そこで極力、負担の少ない流行へのストレッチ体操を、お薦めしたい。

止め、暮らしの中や仕事にさらりと取り入れ、ちよつと反映しさえすればスマートで、生きやすくなるはずだ。そして個人的に言わせていただければ、流行音痴な人もかなり好きな部類の人間に属する。理由は、その訥々とした姿や優しさに謂れもない上品さをおぼえるからで、むしろ、必死で流行を追いかけ回している人より優雅にさえ思われるのは、私がデザイナーであるからだけの理由ではあるまい。



Yukio Baba.

粋な着こなしへの第一歩——それはまず、「遊び心」と「柔軟さ」を持つこと。流行に振り回されず、拒まず、気軽にトライすることから始まる。適度なバランス感覚を身につけた時、洗練が加わる。

Men



まず、衣服なら今流行つていと言われるものを気軽に着てみることに、行為なら習うより慣れるの心意気で勇氣をもつてトライしてみることからだろう。無論、人間少しの分別は必要だから、年齢に応じ、体格に合ったストレッチ体操であることは言うまでもないが。とにかく考えるより行動が効果を上げる。

そして、この基本がしっかりと身につく、習慣となれば、後は、自分に似合うもの、相応しいもの、さらに好きなものだけをチョイスしても、決して流行からズレたりしないはずである。

結局、食わず嫌いは、この場合も良い結果を生まないし、生きる世界を狭めてしまうことだけは確かである。

ましてや、ただか流行と考えると、一本のネクタイ、一枚のスカーフがなにあるう。とりあえず買ってみて、とりあえず襟元を飾ってみて、すべてはそこから考えてみるでも遅くない。

たとえば今秋の一つの傾向が、ミニマリズムから、アーティスティックへというのなら、早々にランジェリー、ルックに見切りをつけるのが肝要だ。そして、この見切

りのつけ方とタイミングを覚えるには、まずミニマリズムの洗礼を受け、飽きるほどのミニマリズムとの同化を経験するのが一番の早道なのだ。

そのうち、きつと同化せずともその流行の正体が自分といかなる関わりを持つものかということが、こんな経験を経ずともわかるはずなのだ。

一言で言えば、最終的に好きこそものの上手なれ、が成功の鍵を握っているのである。

## 流行の落とし穴

流行を暮らしの中に、エッセンスとして取り入れることは、窓辺に花を飾るほどの意味で、一日を明るくものにしてくれる。だから、流行へのアプローチに必要以上に敏感でなくともよいし、こたわり過ぎることもかえって効果が薄い。かといって妙に頑なに否定し、むきになって抵抗するのも、少しばかり過剰反応で、遅れることを恐怖して、流行マニアになってゆく過程によく似ている。やはり、この場合も大人ならではのバランスのとれ

た感性がもつとも有効ではなからうか。

ただ稀に、あくまでも変化や流行を、同様の洗練された大人の観念で拒否し続けるのも、難易度が高いが美しいおしゃれとして存在することを付け加えておこう。

そして、もう一つ、流行には決して手出しをしてはならぬものもあるということを、頭のどこかにとどめておいても悪くない。

その危ない流行とは、商業主義の匂いのみが表面に浮き出した露骨な流行である。

いわば、時代の自然な要請にかなわない、無粋な現象である。

ファッションをはじめ流行それ自体、経済に深く関与していることは否めない。が、流行が人間の自然な感情を逆なでし、変化がたわいのない基本的な幸せまでもねじ伏せるものであったなら、どうしてこれらが日常のエッセンスの効用たりうるであろうかと考える。

粋も過ぎれば野暮となり、流行も優雅の前では意味もない。

## Women

流行と保守、アクティブさとエレガンス……一見、相反するような二つの要素の間で揺れながら、自然に「自分らしい」おしやれを確立していく。「スタイルのある」おしやれは日々の暮らしの中から生まれるのだ。



わたなべ・ゆきさぶろう／1949年東京生まれ。セツ・モード・セミナーを卒業後、72年（株）ミッチを設立し、婦人服プレタポルテを発表。第1号店として目白にショップを開く。75年オートクチュール部門を設立、さらに靴、バッグ、紳士服、時計、ジュエリー、きものなど幅広くデザイン活動を行っている。上品で優雅なコスチュームを創造する、デザイナーの第一人者。

Yachi's



■櫻友クラブ会員誌部会

部会長

矢野 垣 (昭34仏)

●編集分科会

担当理事

高杉 晴治 (昭47政)

編集チーフ

白井 康裕 (昭51政)

分科会員

今村 明美 (昭47短英)

足立みなみ (昭60法)

吉田恵美子 (昭60仏)

加治 佳子 (平3短国)

奥野 留美 (平3短英)

前田 佳子 (平5政)

木村公美子 (平6仏)

高橋 直子 (平6仏)

安田 順子 (平7哲)

名取 知香 (平9法)



●マッシュルームの原産地はヨーロッパ。ローマ時代から野生のものが食べられていたが、17世紀になってフランスで栽培された。世界中で需要の多いハラタケ科のキノコで、日本名ツクリタケ。

食卓の  
四季

VOL.3

江上種英 (昭60経)

えがみ・たねひで/1963年東京生まれ。江上料理学院主幹。食品食材のコーディネーターに従事。「日刊スポーツ」、「小説すばる」、「久保田通信」などにエッセイを執筆。

マッシュルーム

Mushroom

どんな素材や、調理方法と組み合わせても、おいしく食べられる「マッシュルーム」。その愛らしい形も、すっかり一般的になっているが、明治初年に日本に導入された後は、長い間ほとんど普及しなかった。戦後、清潔な栽培方法が開発され、食生活の洋風化と共に、生活の中に定着していった。

香りが強くアメリカやカナダから輸入されるブラウン種と、茨城県や千葉県で栽培されるホワイト種が出回っている。また、高級食材店では「シャンピニオン・ド・パリ」と称して、ホワイト種をフランスから空輸している。

ラテン系の人々もマッシュルームが大好きだ。スペインにはどんなに小さい村でも「バル」がある。「バル」とはバーとカフェと惣菜屋を足したようなもので、簡単な椅子もあるが、多くは立ったまま飲み食いする。ハムやオムレツなど専門の料理に特化している場合も多い。ここで出される小料理を「タパス」という。

バルセロナには「バル」の集合地帯があり、そのエリアのワイングラスは共用で、最初の店でワインを買ってあちこちの「タパス」を食べ歩き、最後の店でグラスを返せばいい。素材を生かした料理が多いので、マッシュルームはひっぱりだこだ。牛の血の色の赤ワインを楽しみながら、情熱の街の夜は更けていく。

HOW TO COOKING

■マッシュルームのセゴビア風

- ① マッシュルームは、さつと洗って石づきを根元から切り、裏に塩、胡椒、カイエンヌペッパーを振る。
- ② 生ハムを粗切りにして①にのせる。
- ③ 厚い鍋にオリーブオイルを熱し、ニンニクの薄切りをちらして②を並べ、蓋をして蒸し焼きにする。

[オプリージ] Summer No.22  
**Oblige**

1998年7月25日発行

発行人/賀陽治憲

発行所/桜友会

〒171-8588

東京都豊島区

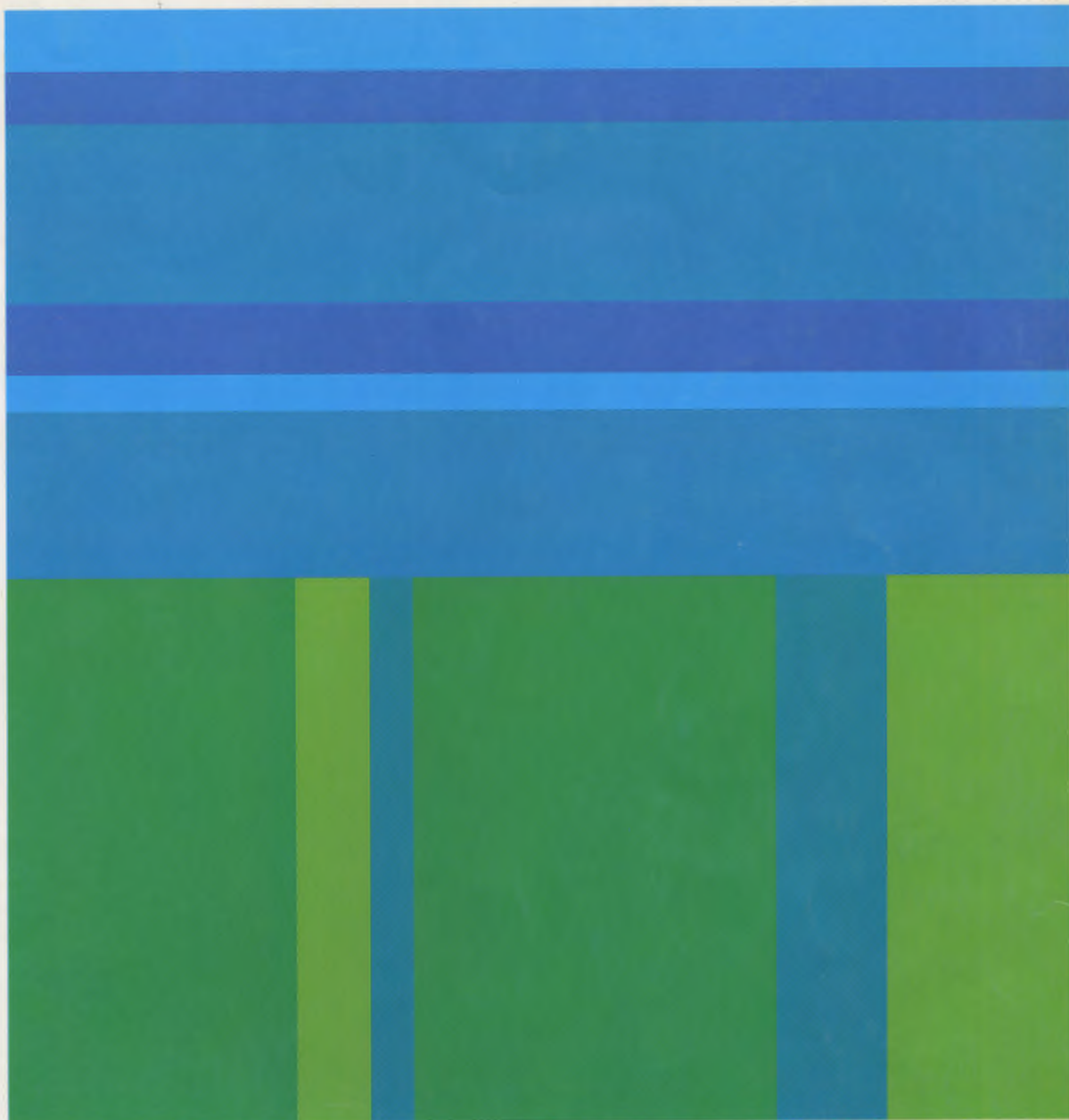
目白1-5-1 学習院内

☎03(3988)3288

編集人/村上智也

印刷所/高陽堂印刷





もっと魚を。  
もっと緑を。  
カジマ

こわれた自然をモトに戻すのも技術のひとつです。  
環境と仲よく。カジマ